京城日報

廿四日夕刊

定價　本紙　一部金二錢五厘一ヶ月金五拾錢（郵送料前金）三ヶ月金壹圓四拾五錢六ヶ月金二圓七拾錢▲郵券代用二割增

廣告料　▲五號活字一行金七拾錢▲場所指定一行金拾錢增▲三號活字は二行分▲六號活字は五行分

發行兼編輯人　奥田直毅
印刷人　小川三之介

京城太平通一丁目
發行所　合資會社　京城日報社
電話番號　編輯(長)三四五番・營業(長)三二六番・一二一四番・六六〇番　振替貯金口座京城三〇〇番

◎袁總統二箇年留任

南京會議に於て決議

去る十九日より開催せられたる南京會議に於て袁總統を向後二箇年間留任せしむる事に決議せり（北京電報）

▲別報　南京に會同せる九省選出代表者豫備會議に於ては大多數を以て袁總統の留任を決議せり（東京電報）

◎四川陝西等の獨立

四川陝西兩省全部及び湖南省内各地個々に獨立を宣言せり（東京電報）

◎四川の形勢重大

二十日成都來電に據れば成都の形勢は極めて重大にして何時危急に陷るや計り難しと（上海特電）

◎兌換停止解かれん

支那政府の中國交通兩銀行兌換停止命令は列國の救濟により近く解停せらるべし（東京電報）

◎張の確言

張勳は南京會議に於て余は馮國璋と行動を共にすべしと確言せり（上海特電）

◎河南奉天のみ

袁總統援助を云ふ者　南京會議列席の代表者中具體的に袁大總統を援助すべしと云へるは僅に河南及び奉天の代表者のみ也（上海特電）

◎濰縣開城せず

濰縣城は二十三日開城せざるを以て將に大波瀾を見んとす（青島電報）

◎陳烱明殺さる

前廣東都督陳烱明は廣東にて刺客の爲め暗殺せられたりと（東京電報）

◎空中大戰爭

獨逸飛行機隊の爆彈投下
＝聯合軍大飛行機隊の奇襲

獨逸飛行機隊は十九日來二回白耳義ダンケルクを砲擊二十日夕刻爆彈二十個を投下し即死四名を出せり又廿三日正午他の飛行機隊はダンケルクの港外に爆彈百個を投下し即死兵士二名小兒一名負傷者二十名を出せり而して聯合軍飛行機隊は之を邀擊したるが敵飛行機中二隻は獨軍戰線に歸還せんとして射落されたり又英佛白軍より成れる五十三隻の聯合軍飛行機隊は第一回の奇襲を行ひたる後ウヰフエゲ及びフクステルスの獨軍兵舍に二百五十個を投下せり尚ほ獨軍飛行機隊はベルフオートに對し爆彈十五個を投下したるも損害極めて些少なりき（倫敦電報）

◎聯合軍攻勢運動開始

聯合國各首府に於て一般に信せらるゝ處によれば英佛軍に對する獨軍の攻勢は聯合軍が攻勢に出んとする機先を制せんが爲めなりしが獨軍の攻勢も漸く下火となると同時に近く來るべき事を暗示し居れる聯合軍側の攻勢敵對運動は今や著々開始されつゝあり（紐育電報）

◎ヴエルダン激戰繼續

獨軍に有利の報道

獨軍はジバンシー附近に於て英軍の戰線若干哩を占領したり　ヴエルダン方面に於ては今猶激戰繼續し一般に獨軍に有利なるもムーズ河の左岸オードロモンに於ては佛軍は少許の成功を爲せり（紐育電報）

◎獨軍の小亞細亞增援

十六日附ブカレスト來電に依れば獨兵四千名は來る六月バグダードに到著する筈なるが一萬二千の墺國兵は既に同地に在り獨軍はコンスタンチノープルの防備を裂いて能ふ限り總ての增援隊を小亞細亞に派遣しつゝあり（倫敦電報）

◎經濟同盟會議開期

巴里に於ける聯合國經濟同盟會議は六月六日より開會に決せりと（東京電報）

◎英取引禁止敵商發表

英國政府は取引禁止を命じたる敵國商人人名簿を發表せり（東京電報）

◎銀塊銅鐵下落

稀有の暴騰をなしつゝありし銀塊銅及び鐵は一律下落せり（東京電報）

◎平岡氏控訴さる

二十三日東京地方裁判所に於て證據不充分として無罪の判決言渡を受けたる平岡定太郎氏に對し係檢事は控訴せり（東京電報）

◎山縣政務總監

山縣政務總監は歸任の途次廿四日朝當地を通過したり（釜山特電）

◎古海警務總長

古海警務總長は令兒病氣見舞の爲め廿四日朝釜山通過大阪に向へり官民多數埠頭に見送れり（釜山特電）

◎藤澤參政官一行

藤澤內務參政官一行は二十四日午前六時平壤より鎭南浦著官民有志の出迎を受け夫れより自動車にて廣梁灣を視察して引返し同地官民合同の歡迎會に臨み午後一時平壤を經て安東縣へ向へり（平壤電話）

◎物集博士南浦著

講演の爲めて來鮮中なる物集文學博士は二十四日午後一時平壤より鎭南浦著官民有志多數の出迎を受け中村精七郎氏邸に投宿せり（鎭南浦電話）

◎鎭南浦講演會

鎭南浦に於ける本社平壤支局主催物集博士の講演會は二十四日午後四時半より公立尋常高等小學校講堂に於て開會されたり此日雨天にも拘らず同地重なる官民を初め內地人側各學校職員生徒等約四百有餘名の聽講者あり講演約二時間に亘り近來稀なる盛況を呈せり（鎭南浦電話）

◎元山開港記念日

二十三日は元山開港記念日にて全市の裝飾眼も映ゆるばかりなり諸種の催しありて晝夜共に賑ひを極めたるが中にも元山每日新聞社主催のマラソン競走は未曾有の盛會なりき（元山特電）

◎總督邸晩餐會

寺內總督は二十七日午後七時より官邸に於て晩餐會を催し各司法官、各部長官、局長、關係課長、警務總監部課長以上五十一名を招待す可し

◎政務總監歸任

東上中なりし山縣政務總監は遠藤秘書官を隨へ二十四日午後九時南大門著にて歸任すべし

◎古海總長上阪

古海警務總長は令兒急病の報に接し廿三日午後七時五十分發急行にて大阪府豐能郡北豐島村石橋へ直行せり來月上旬歸任の豫定なりと

◎司法官會同（第三日）

司法官會同第三日は二十四日午前九時より開會前日に引續き諮問事項の答申を爲し午後より協議事項を日程として協議したり

◎工業教育調査

時勢の要求に應じて生る

朝鮮の工業は未だ幼稚の域を脫する能はず朝鮮內に需要せらるゝ日用工業品は大部分內地或は外國よりの輸移入に仰ぎ居れるが而かも朝鮮よりの輸移出品は多くは工業製品の原料にして換言すれば朝鮮に生產する原料品は他に送り之が加工品を高價にて供給を受け居る有樣なりされば識者の間には夙に如斯情勢に放任して朝鮮產原料の豐かなるに拘らず他の加工に仰ぐことは朝鮮の經濟發達上遺憾大なりとし當局者を始め民間有志者に於ても朝鮮工業獎勵の急務を唱へ殊に歐洲時局の影響を受けて外國品の輸移入減少し一方には輸出增加し內地に於ては各種小工業の勃興を見るに至るあり近くは京城商業會議所が家庭工業の獎勵策を發表する如き今や朝鮮も亦工業の獎勵は上下の輿論となり來れり斯の如き氣運に於て總督府に於ては夙に工業の獎勵方法に就て研究中なりしが先づ其の工業的智識の涵養を圖る一大急務なりと認め今回總督府內に工業教育施設に關する調査委員會なるものを設くるに決定し既に去る廿二日午後二時より第二會議室に於て第一回の委員會を開き寺內總督も親しく臨席して訓示を與ふる所あり同調査に關する大體の方針を定めたるが更に來る二十九日午後二時より同所に於て第二回の委員會を開くことゝなれり該調査委員に任せられたるは何れも工業又は工業教育に直接關係ある左の十四名にして夫々部署を定め目下著々調査の步を進めつゝあり此調査會の結果は最も注目に値すべく同會の調査期限は本年夏季休暇前迄なりと

▲工業教育調査委員

總督府參事官	秋山雅之介
中央試驗所長	豐永眞里
總督府商工課長	青木戒三
總督府鑛務課長	村川素一郎
鐵道局技師	黑澤明九郎
總督府技師	國枝博
中央試驗所技師	今津明
同	字野三郎
同	小山一德
工業專門學校教授	古城鴻一
遞信局技師	高崎齋
總督府技師	山岡元一
工業專門學校助教授	上田嘉助
總督府技師	岩井長三郎

◎松永道長官視察

松永京畿道長官は時永事務官を隨へ京城府事務視察を每日午後一時より廿四日迄に約十日間に渉りて行ひ既に其の三分の二を終りたるが京城府視察終了後は時日を定めて漸次管內の各府郡廳に就き綿密なる事務視察を舉行すべしと

◎京畿隊署長會議

豫て京畿道廳內宣化堂に於て開催中の京畿道警務部管內各隊署長會議第五日は二十四日午前八時各隊署長隊本部員道警務部及び各係主任警部出席し隊部長統裁の下に打合事項あり正午休憩の後午後一時より再開部內講話として檢事正松寺竹雄氏の講演あり次て同四時散會せり廿五日は午前中休憩午後隊部警務部長の訓示ある筈

◎隊署長の視察

隊署長會議の爲め入京中なる京畿道管內の各隊署長は二十四日一同鍾路拘置監、西大門監獄等を視察したり尚二十五日は鍾路警察署其他を視察すべし

◎在鄕軍人懇話會

京龍在鄕軍人會にては來る二十七日午後三時より南山本願寺に於て海軍記念祝賀會を兼ねて在鄕軍人懇話會を開催す因に當日は高橋大佐の歐洲戰亂に關する有益なる講話ある筈なり

◎陸軍大學見學團

陸軍大學生滿鮮戰跡旅行團一行は校長陸軍中將河合操氏統率の下に教官步兵中佐吉崎顯作、同川村尚武、同林仙之、同工兵少佐河田四十一、副官步兵大尉中井武三、一等軍醫森本快吉の諸氏に率ゐられ第三學年生五十六名外に下士六名、合計六十九名にして廿七日安東縣に到り同日汽艇にて義州に赴き統軍亭にて一場の講話を聞き廿八日安東出發同日平壤に下車牡丹臺、玄武門其他を視察し同夜平壤發廿九日朝七時五十分南大門著入京、同日は京城市中を見學し三十日朝八時半南大門發同夜乘船歸東の豫定なり

◎總監部恒例講演會

警務總監部憲兵隊司令部恒例講演會第十一回は廿四日午前八時總監部會議室に開催各部課長等官以下判任官以上全部出席[illegible]務官の全羅南北兩道視察に關する講演ありたり

◎一覽拂手形（鮮銀の）

朝鮮銀行にて近く滿洲に發行流通せしめんとする小額の一覽拂手形十錢二十錢五十錢の三種は既に閣議を通過し決定を見たるが愈々一兩日中に條件を具し總督府より朝鮮銀行に對し認可し來るべしと

◎保險業者大會

京城に於ける各保險業關係者は明治生命社長阿部泰藏氏の來京を機とし二十五日午後六時より京城ホテルに於て同氏歡迎を兼ねて大會を開催すべし

◎平壤商議設置認可

平壤商業會議所は曩に總督府に對し設立認可の申請中なりしが廿四日總督の認可を得たりと

◎東拓會社理事

吉原東拓總裁及び野田副總裁は寺內總督の手許まで又井上南理事は野田副總裁まで各辭表を提出したる事は既報の如くなるが同社理事村田俊彥韓相龍の兩氏も副總裁まで辭表を差出し居れり

◎三島理事歸任

東上中なりし三島鮮銀理事は二十三日午後九時南大門著列車にて歸京したり

◎李鉼鉉氏退任

株式會社漢城銀行支配人李鉼鉉氏は豫て病氣の爲め辭職中の處二十四日依願免せられたり因て同行支配人は專務取締役韓相龍氏兼任執務する由

◎岡少佐著任

先般駐劄軍參謀を命せられて駐劄軍司令部附松井少佐の後任に決定せる岡步兵少佐は二十四日朝龍山著任夫々新任の挨拶を爲せり

仁川

▲仁川貿易特殊事項　四月中の仁川港輸移入貿易は百二萬四千餘圓にして前月に比し四十六萬四千餘圓を激減せり近來貿易上に顯れたる一現象として刮目に價するは齋藤來諸物價一齊に昂騰を示し品薄による先高見越輸入旺に行はれ被服品食料品等異常の入增を來し荷潤澤を告げたるも賣行は却て一段落の有樣にて荷動鈍狀を呈したるものあり從て此等諸品は反動安を受けたるが近時漸落の步調に出で取引行はれず是が趨向は貿易上に顯はれたるものと云ふべし更に新春以來米穀在庫數が常に十四五萬餘個を算し殆て減少の模樣なかりしが本月に入りて玄米、大豆が廻送なきに反し移出筋稍好調にて在庫數五萬餘個を減少したるの一事なり▲大井氏來仁　大井憲太郎氏は二十四日午前九時五十八分杻峴驛著列車にて隨員同伴京城より來仁せり▲和田書記長歸仁　仁川商業會議所書記長和田友太郎氏は仁川瓦斯會社創立要務を帶びて東京大阪に旅行中なりしが二十四日午前九時五十八分杻峴驛著列車にて歸仁せり

平壤

▲道長官巡視　工藤平安南道長官は左記日程を以て北村、村川、金永弼の三書記を隨へ二十四日管內巡視の途に著けり
▲廿四日平壤發順川泊▲廿五日順川發新倉泊▲廿六日新倉發北倉泊▲廿七日北倉發孟山泊▲廿八日孟山發寧遠泊▲廿九日寧遠發德川泊▲卅一日德川滯在▲六月一日德川發价川泊▲二日价川發軍隅里泊▲三日軍隅里發安州泊▲四日安州發永柔泊▲五日永柔發石岩里順安を經て平壤歸著（但し到著に宿泊す可し）

▲物集博士講演會　本社支局主催に係る物集博士講演會は二十四日午後四時三十分より鎭南浦小學校講堂に於て翌廿五日午後四時三十分より平壤歌舞伎座に於て開催せらるべきが特に平壤に於ては道教育會及び實業青年會は此擧を賛し平壤支局と聯合して開催すべく申込あり尚青年會は博士講演會々場の設備につき盡力せり

▲名士の來平　二十三日午後三時京城より來壤旅館柳屋に投宿二十四日鎭南浦視察に向へり豫備陸軍大佐塚田清市氏は安東縣より來壤深江通譯官宅に投宿又物集博士は二十三日京城より來壤旅館柳屋に投宿せり▲福原男と前田博士　福原男爵前田文學博士は何れも二十四日來壤す▲藤澤參政官歡迎會　藤澤內務參政官の來壤を機として平壤官民有志は二十三日午後七時より同氏を料亭七星館に招待して歡迎會を開催せり▲講演會の開催　二十四日午後七時より黃金町演武場に於て平壤實業青年會在鄕軍人分會主催の下に豫備陸軍步兵大佐塚田清市氏乃木大將の逸話と題する講話を二十五日午後七時より平壤敎友會在鄕軍人分會主催にて前田文學博士の講演あるべしと

清州

▲隊署長會議開期　忠北道管內憲兵分隊長同分遣所長警察署長會議は來る六月五六七の三日間忠北警務部に於て開催し同時に各隊署より劍道に達したる憲兵巡査等の劍士を召集し同八日擊劍大會を催すべしと▲長官歸任　忠北道長官は廿一日夕歸任したり▲忠北の春蠶　忠北今年春蠶の狀況を聞くに本月十日より十五日頃迄に全部の掃立を了し目下早きは三齡に移りつゝあるが去る七日の暴風に遇ひしため桑葉の發育惡しく多少懸念したるも左したる影響もなく來月下旬上簇すべきが此の順にて進まば本道內に於ての豫想の產繭數二千二三百石を得ること難からざるべしと▲白晝の出火　二十三日午後三時頃本町三丁目二十八番地裏の空家より出火し同家一戶を全燒して鎭火したるが原因は附近の小兒集まりて屋內に於て燐寸を弄び失火したるものなるべく忠北道物產陳列場に近く特に家屋櫛比したる場所とて一時は大混雜なりき

大田

▲果樹講演會　大田郡廳主催となり二十五日午前八時より本町淨土宗寺院にて大邱模範場田中技手を聘し果樹栽培者に對し果樹に關する講演會を開く▲政務總監通過　山縣政務總監は歸任の途二十四日午後五時大田通過▲實業協會創立　當地には從來商工業調査機關無く大田商工報社なるものありしも有名無實の有樣にて一般商工業者の不便甚しかりしを以て辻、岸、內藤其他の有志唱者となり實業協會を創立すべく準備中なりしが其筋より許可ありたるを以て近く是れが創立總會を開く由なり▲管中聯隊長歸隊　管中駐在中隊巡視中なりし緒方第七十九聯隊長は二十三日歸隊せり▲諸官吏歸任　郡守會議の爲め公州に出張中の金郡守及び隊署長會議列席の村田憲兵分隊長並に橋本警察署長は何れも來る廿八日頃歸田の筈

大邱

▲松毛蟲被害甚大　慶北達城郡にては達西、城西、花園、壽城、城北、論工、玉浦の諸面に亙り松毛蟲の發生激增し被害の程度除石數三十石九斗に達し被害の程度知る可らざるものあるを以て郡廳は大邱警察署と協力し廿三日より五日間を期し土地所有者に大驅除をなさしむる方針なりと▲明治神宮奉賛協議　竹崎大邱府尹は明治神宮奉賛會に關し二十五日午後正一時より府廳樓上に於て協議會を開く可く府內有志に通知を發せり▲水博慶北受賞者　過日東京に開會されたる海事水產博覽會朝鮮出品受賞者中慶北管內は盈德郡李守英、鬱陵島若崎孫右衛門、迎日郡坂本七五郎、鬱陵島野津由吉、同藤野金太郎、同魚谷伴四郎の諸氏なりし▲矢島試補出張　矢島慶北道試補は地方事務視察の爲め廿二日より四日間の豫定にて星州地方に出張す▲石田慶北道書記出張　同書記は製紙工場監督の爲め三日の豫定にて二十二日同地へ出張

裡里

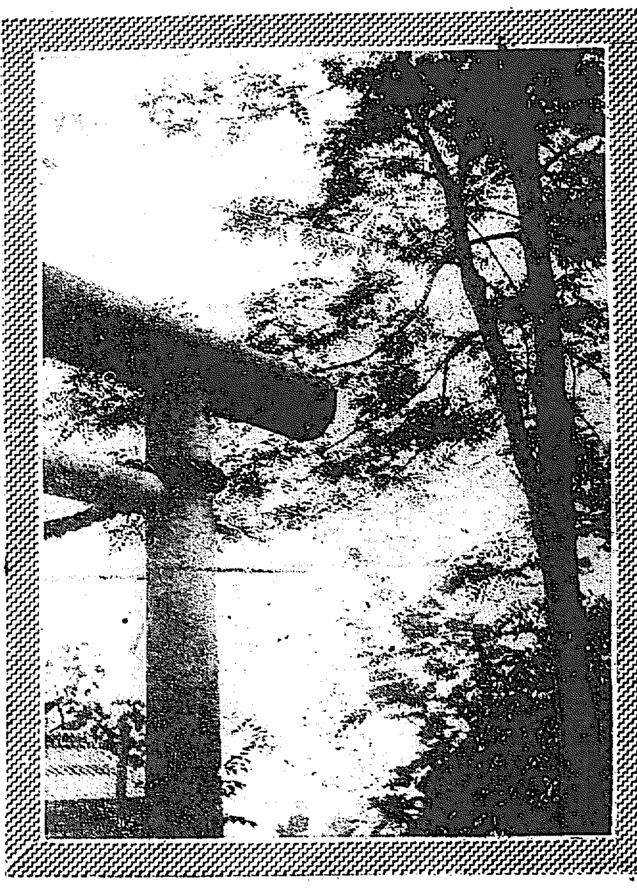
▲道長官招待宴　新任李全北道長官は今回管內巡視の途裡里に一泊せるを機とし廿日午後四時より官民有志七十餘名の發起にて招宴を裡里座に開催したるが板井裡里學校組合管理者發起人を代表し一場の挨拶をなし長官は立つて謝辭を述べ直に宴に移り午後七時宴を撤したり

釜山

▲向井對馬島司京城へ　廿二日夜來釜せる長崎縣對馬島司向井倭雄氏及び隨員對馬島廳水產技手市木收介氏の一行は大池旅館に投宿中なりしが廿三日水產組合商業會議所を視察の上廿四日京城に向ふ▲鰮漁寄漁業解禁　釜山港內の鰮漁寄漁業は廿二日より解禁されたるが大原組合長は港內漁業者を組合に召集して其の顛末を報告し一場の注意を與へたり

人事消息

▲蒲川利三郎氏（稅務課長）　廿五日より四週間東京へ出張
▲島田志良氏（遞信局監理課長）　廿三日夜歸任
▲横井實郎氏（鐵道局汽車課長）　政務總監出迎の爲め廿三日夜發釜山へ廿四日夜歸任
▲野呂景義氏（工學博士）　入京中の處二十三日夜出發東京
▲[illegible]氏（子爵）　二十三日夜天安より歸京
▲大井憲太郎氏　二十四日朝仁川へ
▲関水精氏（男爵）　二十四日朝仁川へ
▲徽文義塾職員生徒七十名　二十四日朝仁川へ
▲阿部泰藏氏（明治生命社長）　二十三日夜朝鮮ホテルに投宿
▲スミス氏夫妻（米國陸軍武官）　二十三日夜入京朝鮮ホテルへ



アカシヤの花……京城神社にて……

東宮殿下横須賀行啓

―兩皇子殿下御同伴にて―

台覽中飛行機イ七號の顛覆

東宮殿下には豫て御出されし如く横須賀海軍工廠第五船渠及山城艦並に海軍航空隊御見學の爲御微行にて淳宮高松宮兩皇子殿下御同伴廿一日午前九時品川驛發臨時列車にて同十時廿五分横須賀驛御著殿下には海軍中尉の御軍服に兩皇子殿下には學習院の御制服を召され奉迎の

▲諸官に御會釋を賜ひつゝ同驛より御徒歩にて逸見埠頭に成らせられ同所に奉迎の藤井鎭守府長官の御案内にて筑波艦救水雷艇に乘御鎭守府長官御陪乘の下に工廠第五船渠前に御上陸井口工廠長南檢査官平岡造兵大佐入澤造機山田造船各部長荒川金剛艦長石黒建築課長等奉迎中しが殿下には工廠長の御先導にて此廣大なる東洋一の船渠を御見學あらせられ次で小海に繫留中の戰艦

▲山城艦艤裝工事を御熱心に御順覽艤裝委員に御下問さへありタービン工場前より工廠内の輕便汽車に召されて鎭守府に入らせられ御晝餐後午後一時同府御出門工廠廳舍前の棧橋より御召艇に召され長官御陪乘中上げ朝日金剛の艦載水雷艇及び港務部の汽艇に分乘せる供奉員を隨へさせられ白波高き軍港内を御通過追濱航空隊に成らせられ山内司令以下飛行將校及下士整列奉迎中の

▲棧橋より御上陸 御少憩の後山内司令の御案内にて隊内御順覽飛行機御見學終て一時三十五分台覽に供すべき編隊飛行運動の用意は開始されしが操縱者並に同乘者は左の如し

▲イの二號機(桑原大尉 矢島中尉)▲イの三號機(海谷 笠井兩中尉)▲イの七號機(山本 大西兩中尉)▲イの九號機(別府 小路兩中尉)▲ハの二號機(大崎大尉 磯川中尉)▲ハの一號機(三上 山口兩中尉)▲ホの二號機(假倉大尉 和田中尉)▲ホの四號機(井上大尉 阪本中尉)

かくて準備全く成るや午後一時四十五分各機は右の順序に依りて滑走臺を離れ機首を北に向け防波堤附近より昇騰し

▲各機横隊縱隊 を作つて盛に編隊運動を行ひ殊に三上中尉のハの一號機は海上に設けられたる標的を目覘けて爆彈を投下したるに命中爆發し假倉大尉操縱和田中尉同乘のホの二號機よりは光彈を投下し陸上よりも煙火信號を行ふなど實に壯觀を極めたれば三殿下にはいと御熱心に台覽あり次で各機は翼を揃へて長浦灣上に十米突の風力を衝いて圓形縱形などの隊形を以て最も巧妙なる飛行振りを示せるに殿下には思はず

▲「勇敢なり」この 御賞辭を賜はりたるが年後一時五分各機著陸運動に移りイの二號三號七號九號の各機の順序にて著水したるも不幸山本中尉のイの七號機は突風に遭遇しフロートを煽られ筋斗飜打つて

▲海上に顛覆し 機翼を挫折して山本中尉外搭乘將校一名は共に海中に沈沒したるも暫くにして浮揚りて救助されたり殿下には此光景を御覽ありて其安否を氣遣はせられ種々御下問あり御召艇にて長浦造兵部に向はせられ午後三時二十分横須賀驛御發還啓あらせられたり顛覆したる機は午後三時長浦造兵部より到著の起重機にて引揚げを了せし上同四時同部に送達したり(横須賀)

皇后宮御眞影

宮城紅葉山なる御撮影場にて近々御撮影

天皇陛下の御眞影は夙に全國各官廳及び各種學校に普く御下賜相成りたるが、皇后陛下に於かせられても近く御撮影御下賜あらせらるべき趣にて目下宮内省調度寮にては宮城紅葉山なる御撮影場の手入及び藥品の準備中に取急ぎ御撮影の期日は 皇后陛下の大御心による事とて未だ確定せざれども多分本月中に行はせらるべく御當日は先づ御衣替室に入らせられ女官の捧ぐる洋裝に御召替あり御化粧の後撮影室に入らせらるれば小川、丸木兩御用係は通常禮服の姿を正して寫眞機を据ゑ黒田御用係と協議の上御姿勢と御位置につき女官を經て言上し謹んで撮影し奉る次第なるが原板十二枚の中より一枚を選定し其後凡そ二箇月の日子を以て調製を了るべしと(東京)

邦人二名襲る

百數十名の土匪より

去る十五日長清縣周官屯にて吉田德一郎外一名の邦人が制錢を五臺の小車に積みて運搬中鐵砲刀槍を所持せる土匪凡百五六十名の一隊に襲撃せられ價格千百圓の制錢と外に現金百六十圓を强奪せられたる上打擲傷を負ひ辛くも九死に一生を得て急を告げたれば領事館並に商埠警察署よりは數名の馬隊出動し古銅組合よりは組合長外二名現場に驅け付け目下取調中(濟南)

印度詩聖來期

日印協會の歡迎準備

印度詩聖タゴール氏は愈々本月末郵船土佐丸にて神戸著の筈なるが同氏よりは夙に來朝延期の理由及び今般來朝の目的希望等に關し印度の某有力者を通じ日印協會宛内報あり右に付き目下同會にては各方面の有力者と交渉し適當なる歡迎方法を講究中なるが滯在は三箇月の豫定にて一行は英國人インダスユース及びテソンの兩氏と從僕一名都合四名也(東京)

宮崎丸倫敦著

郵船會社歐洲定期船宮崎丸は去十七日ビスケー灣より英國海峽に入らんとする途中ウーシャン島沖合に於て獨逸潛航艇の爲に襲擊せられたるも幸うじて免れたるは既報の如くなるが船客船員共十九日倫敦に安著したる旨同日午後七時倫敦支店發電にて東京本店に入電ありたり(東京)

戰亂が生だ極端な個人主義

▽紊亂した倫敦婦人社會の風紀

▽幾度か危地を犯した豐岡丸

歐洲航路三萬浬日數約二百二十日の長航海を無事神戸に歸來したる郵船豐岡丸(七千噸)の大澤一等運轉手は語る

昨年十月十六日神戸を發して途中古倫母ポートセット等を經て十一月二十日スエズを通過し同二十九日ジブラルタルに至つた、此間の海上は素より危險であつたが其頃は未だ大した噂も無かつた本船がスエズを過ぎた時佛國の警備艦が地中海を遊弋して警護の任に當り

△潛航艇や水雷 などに注意せよと云ふ警告があつたが幸ひに何等の氣配も無く十二月六日倫敦に著いたのは天佑であつた、後で聞けば潛航艇は當時ビスケヤ邊りを迂路ついてゐたと云ふことだ、元來獨逸の潛航艇は惡い奴には相違ないが案外正直だ、何故かと云ふに冬季の北海は不都合の時は南の地中海に出沒し夏の南に惡い時は北海の活動の行易い處を選んで其

△毒手を揮つて ゐる、潮流の關係や氣候の變梅を主眼にして行動を換へて居る處などは面白い、過去の行動に徴すると必ず爾うなつて居る、故に地中海は夏季に於て一層危險を感ずる譯だ、餘談は措いて十二月六日倫敦に著いた本船は三週間碇泊した、其は戰爭の爲めに多數の勞働者が徵發され船働き迄に影響し揚荷に大困難を來したからで今でもあるが

△當時の倫敦は 市街の全家屋を覆ふして燈火を滅し飛行船の來襲を防いでゐた、其れから私は倫敦に於て婦人社會の風紀の甚だしく紊亂して居た事實を見聞した文明の大壓力が生んだ個人主義の極端な發動は戰爭に際して益々激しく人の妻たる者が良人の出征後單に自分一個の安泰を保持せん爲め既に良人あるを忘れて物質慾の爲めに節操を芥の如くに唯金のみに仇し情夫に肌を許して而も自若

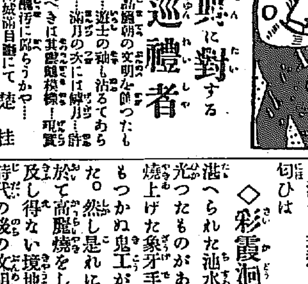
△公々然情夫の手 を把つて野卑な唄を歌ひ浮れて居る此醜態を感染して手が附けられぬ有樣である近頃は軍人が大過で、中には惡辣なる事實は漸次中流以上の家庭にまで軍人に假裝して良家の子女を玩弄して居る怪漢次第で文明國の裏面は滅茶々々で隨つて其兵士の如きも全然一心で義勇奉公の志は毫末も有たものでない荷物の大部分は此處で卸して了つたので今度は空船のまゝ大西洋を横斷して米國紐育に向つた其間に

△獨逸の飛行船 が眼を著けて撃沈を企てたと云ふ事であつたが幸ひに影を見ずに過ぎた途中英國軍艦の掃海作業が大暴風雨に出會して豫定より大分遲れ紐育に著き更に例の南米の東北位に在る赤道附近の危險區域に入ることとなつた一時[illegible]しかつた佛蘭西のアッパム號が獨逸に捕獲されて獨逸國旗揭揚の下に米國領域に入込んで米國に一杯喰した

△事件の發生地點 を大心配の中にヤット無事に過ぎて三月十九日喜望峰を迂回し四月十六日新嘉坡に著き更に炭水を滿し二十七日長崎著五月一日轉じて浦鹽に向つた、十八日同港出帆に際し丁度其日の午後二時頃彼軍需品の貯藏されてある山方の陸軍倉庫から濛々たる黑煙が上つて一天俄に搔き曇つた、是ぞ浦鹽大火の起りで火事は翌日の午後迄續いた近頃の大火事で多分獨探か何かの放火であつたと云ふ事だ(神戸)

雲右衛門來る

浪界の大家桃中軒雲右衛門は今回滿鮮巡業の途に上り六月六日頃大邱にて開演する豫定なり(大邱)



古典に對する巡禮者

―高麗朝の文明は何處へ行つたもの……遊士の袖も沾るてあらう……滿月の次には虧月……許すべきは其雲鶴模樣……現實の醜汚に陥らうかや……

開城滿月臺にて 楚 桂

一體朝鮮各地の土質が概してさうだ相であるが開城附近も山に花崗岩質の處が多い。今日滿月臺に遺された礎石が總て立派な花崗岩で他の石は更に無い樣ではあるが李王職の八木氏は十數年前此處で白大理石の柱石か何かの一部を拾つた事があると云ふ。無論

◇建築の華美と技巧 を示す爲めには北青の碧黄玉、木浦の斑石は言はずもあれ朝鮮に求められない所は支那からも輸入して、魚目燕石以て高麗朝の文明を飾つたものと見ねばならぬ。輪奐の美を極めた滿月臺城が巍然と峙立ち、方數里にも廣がつた京都に南面して覇を稱へた盛時を偲べば今眼前に見る落莫たる廢墟の狀と思ひ合せて遊士の袖も沾るゝであらう。

◆滿月臺の北松嶽山の山麓から左右に山脈を傳つて城壁が築かれ半月城と稱へられてゐるが、滿れば虧ぐるは天上の事にさへもあり勝ちの習ひ況して地上の榮華は軈て衰亡の期に際會するや明かである。滿月の次には虧月が來るであらう、唯滿月のみでは高麗朝の文明を呪ふにも似て好もしからぬと見れば見られるので縁起に生きた古人は王城の後方に城壘を築き之を半月城と名附け、半月が滿月と爲り滿月が半月と成り憾くて

◇高麗の王朝は永劫 に萬々歳たらんとの意を含めたのであると云ふ。秦を亡ぼしたものは長城、外の北狄ではなかつた樣に高麗王朝の華麗を極めた滿月臺城も同じ運命の下に今日の遺蹟と化つた――古典鑑賞の先蹤の語に據れば高麗朝文化の粹を唯一に高麗燒に歸する。言ふ迄もなくあらゆる文化は燦然と輝やいてゐたが殆んど總てが新羅朝乃至金遼宋元よりの傳來で模倣で

◆見る可き影を留めない ◆然も其れ以下に墮落し

其陶器でさへも主としては宋、元の模倣に重きを置いてゐるとは言へ玆に許すべきは其雲鶴模樣である。殆んどあらゆる意味に於て東洋文明の淵源を爲した支那の藝術も陶磁器に象嵌を施す方法に就ては高麗の文化に及び得ない所があつた。瑠璃の如く滑かに玻璃よりも艶やかな青磁の匂ひは

◇彩霞洞の岩を穿つて 湛へられた池水の翠も及び得ない程光つたものがあつた。もの、美事に燒上げた象牙手の匂ひは人智の及びもつかぬ鬼工があるかと思はせられた。然し是れに象嵌の加へられるに於て高麗燒をして更に一段と他の企及し得ない境地に導き、千年に近い時代の後の文明さへも能く模倣の名以上には到達し得ないものにした高麗燒の氣韻と品位との高く强い處は

◆正しく當代の藝術のみが ◆獨り逸し得た妙諦であつ たのだ。他を忖度せず徒に狐疑躊躇せず粗剛奔放な作品の氣韻は又工匠の心意氣を物語てゐるが、奈何せん今日に於ては其技巧は言ふ迄もなく窯跡さへも未だ完全に發見されてゐないと云ふ。恰も高麗朝の文明其れ自身の如く高麗燒の貴さも又其處にあるものかも知れない。――半月城の殘壘が紫に黄昏れかけた。餘りに長かつた古典の巡禮をやめて現實の醜汚に歸らうかや。(かわり)

元山の開港卅六年祭は去る廿三日盛大に行はれた元山開港は實に明治十四年釜山に次いで最も古き歴史を有つて居る▲濟州島沿海のかじめあらめから沃度を採る事業はだんだん世間の注意を惹き其の後鬱陵島及び北鮮沿岸の海草からだんだん沃度を採り出した沃度の含有量は氣候の寒い處ほどよいのだ相な△むかし朝鮮の紙が立派であつたとは古い支那の文獻類にも記されてゐるが現に奎章閣に所藏された歴代國王の記錄たる各大王實錄、日記並びに政府の記した承文院日記を見ても製紙法の秘訣がよく解る△朝鮮の紙はむかしからだんだん惡くなつて來て居るが願くば再びむかしに復活させたい……とは豐永博士のおはなし▲大好きの和田ドクトルは最近安東縣の鮮銀支店長から一匹の怜悧な英國ポインターを譲り受けて大よろこび、犬がよく主人の命令を聽く點に於ては神戸の田丸さんを凌いで見せると大得意である

東京大相撲夏場所星取表

(○勝●負×分△預や休)

東の方

力士	星取
西の海	○○○○○○○
大錦	●○●○○○○
對馬洋	●○○○○●○
栃木山	○○や○○○●
兩國	○○○●○●○
九州山	○○●●○●●
源氏山	●やややややや
宇都宮	○○や●●●○
釋迦嶽	●○●●●●●
紫雲龍	●やややややや
小常陸	○●○○●●○
近江藤	○●●●●●●
岩木山	●●●▲●●●
大の川	●○○●●●●
宮城山	●●×●●●●
梅ノ川	○○●●○●●
朝緑	●×●●●●●
稻葉嶽	○●●●▲●●
四海波	や○●×●×
龍ヶ崎	○●●○○●●
玉の川	●●○○●▲
逆鉾	○●●○○○
綾川	やややや●
勝星 五十 負星 六十三	

西の方

力士	星取
鳳	ややややや
太刀山	○○○○○○
伊勢濱	●●●○や○
大蛇潟	●●○○○●
浦の濱	●●○▲○●
石山	●○○●●○
大鳴門	●●●○○○
玉手山	○●●●●●
八甲山	ややや○●●
鳴戸洋	○●×●●●
鶴渡	○○●○●○
大戸平	○○○○▲●
黒瀬川	○○○●●○
寒玉子	●○○○●○
[illegible]砂石	○○○○●○
千年川	●●●○○○
土州山	○●●●●▲
稻の穗	●×●●●×
紅葉川	○○○●●●
明	○●○●○○
柏戸	●○×○●○
敷島	●○●○○●
朝潮	やや○○○○
勝星 六十二 負星 四十九	

金牌受領

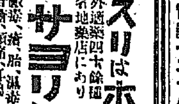
髪を黒く長くつやを出
さらく

として髪のわけ々防ぐ

▲▲廣告▼▼

社員拾名募集(日鮮人)
平壤本町六番地
明治公債出張所

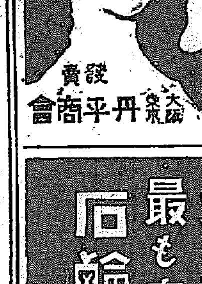
Family Hotel.
本館は市の中央にあり土地高爽、庭内廣く閑靜にして宿泊及び宴會には最も好適す
佛國式料理 宿泊 宴會
京城南大門通三丁目
米國東洋土學建築會社跡(パゴダホテル改)
ファミリーホテル
館主 ミセス、ボーエル
電話一二一八番



クスリはホシ
外國藥四十餘種 各地藥店にあり
ホシサヨリン
散毒、痔、胎、淋毒、疳瘡、頭痛、耳鳴
定價廿錢卅五錢五十錢

小資本にて金儲け現る
新案發錄器械にて活動寫眞の興行が輕便に素人にも出來る他に比類なき金儲機械(壹百臺限り)委細説明書にあり郵券二錢送れ
東京淺草八幡町 振替東京一六六八八
大澤商會

最上 鶴 醬油
京城府龍山元町
關西商會釀造所
電話三十九番 振替口座京城七三九番



自然の黒髪のやうにキットそまる!!
ナイスの五大特長
■タック二十分で染まる、
■永く保ち褪ず剝げず、
■襟枕に汚點つかず、
■却て毛の癖を矯め、
■用方至極手輕なり、
價 大瓶價七十錢 小瓶價四十錢 男子用價三十錢
シラガ赤毛染 ナイス
發賣 大阪東京 丹平商會

古きを守るか
新しきを取るか

石鹸の改良も亦此の圖の如し

最も新しき最も良き石鹸なり

エゴロン石鹸は

三越、白木、松屋其の他、洋品店小間物店、賣藥化粧品店にあり

エゴロンクリーム エゴロンパウダー本舗
東京 丸の内
藤原商店化粧品部

より廿七日に延期したるが裁判長は[illegible]木判事陪席堀部照島の兩判事にして[illegible]森辯護士立會ひ被告辯護人として植[illegible]二月八日京城金教會なるものが格安に地所を賣却するに依り之が購入方[illegible]されたり

◎窃盜して遊興費 京城宮井[illegible]一手初めに外十箇所にて現金布帛等を[illegible]

◎新しい思想と婦人の覺悟
―關屋局長談―

□世の進歩と共に西洋との交通が盛になつて來ると種々新らしいものが精神的にも物質的にも入込で來るそして又其刺戟を受て日本にも段々新らしいものが起つて來る卽ち善惡共に侵入して來る

□此新らしい思潮とか或は思想とか云ふものは恰度海邊に寄する浪の樣なもので到底人力で防ぐことは出來ぬ、故に吾等は此新らしい思想を十分に咀嚼して其長を採り短を補ふと云ふ風にして行かなければならぬ

□併しこゝに注意す可き點は是等の新らしい思想のために日本の國民性と云ふものを沒却してはならぬと云ふことである

□今之れを今少し適切なる問題として考へれば皆さんが他家に嫁して行つた場合に學校で習得したことが必ずしも實地に應用されぬ場合がある

□此時に當つて若し皆さんが既得の智識を强て行はうとすれば必ず老人なり或は主人なりと衝突せねばならぬことになる

□こんな場合に於ては先づ日本に於ける婦人の社會的地位を考へ所謂夫唱婦和で行かねばならぬといふ覺悟が欲しい

□要するに日進月歩の新しい思想は絶わず注意して學ばねばならぬけれども之を實地に應用するに就ては時と場合と又同時に日本に於ける婦人の社會的地位を考へる必要があらうと思ふ(京城高女同窓會にて)

◎追善の爲め寄附 龍山鐵道官舍須子栄市氏は過日死去したる子息[illegible]の爲めに金二十圓を[illegible]保育院京城支部へ孤兒保育基金として寄附したりと

□花の祭 每年花時になると世界中の基督教日曜學校では『花の祭』と云ふのを催すのが例である、京城では來る六月五日の第一日曜日を卜して各教會共花の祭を催すと云ふ

□高女の同窓會 京城高女學校卒業生同窓會は新綠の風涼しき二十三日の午後二時より麗しき母校に第八回の例會を催しました當日第一部にては會務の報告、會歌の合唱、成田會長の挨拶等あり終りに關屋學務局長の講話ありて第二部に移る二部では世帶に馴れた卒業生の手料理にて、おでん、すし、しるこなどの珍味山の如く餘興としては

オルガン、對話、獨唱、活人畫、劇など[illegible]の大出來でありました、來會者は百四十七の中には第一回の卒業生なりと云ふ二十六七の奥樣振り可愛らしき子供を伴へる九期卒の[illegible]はしきあり或はみづ〳〵しき花嫁もあり島田、桃割の[illegible]お召の色もさりげなれど昔忘れぬ女學生の[illegible]今日ばかりは昔に若返つて樂しき一日を過し六時頃散會しました

[illegible]木四方志、八島([illegible]一郞夫)雲雀山(野尻寧一氏)[illegible]子は[illegible]、野尻政香氏、山岡元一氏、村上龍信氏、村上夫人、加藤夫人)會費二圓五十錢

△婦人會役員會 日本基督教會婦人會役員會は二十六日午前十一時より西小門國分長官邸にて開催

△西本願寺婦人會 二十四日境內路の花のお花見會がありました

△愛國婦人會修養會 來る廿日午後二時より文學博士前田慧雲老師の修養講話を西本願寺で催されます

△生花の大會 永樂町末廣氏の門弟にては來る六月二日三日兩日南山東本願寺で生花會を催します、生け込みは六月一日なか〳〵の盛會でありませう

神社と教會とお寺

△日本基督教會(長谷川町) 廿五日午後八時より[illegible]會二十六日午後八時より兒童會あり

△本願寺入佛式(永登浦) 新町の新築落成につき去る廿日京城本山より尊像を迎へ盛んなる入佛式ありたり

△東本願寺(南山) 京都大本山へ出張中の大幸監督は廿六日歸京の豫定

圖がんもどき手製 [illegible]豆腐、胡麻の油、牛肉、蓮、人參、慈姑を用意して先づ牛肉、蓮、人參を細かに切り[illegible]く豆腐を其鉢でよく擂潰し其中へ先刻の香詰めた物を交ぜて適宜にまるめて油の沸いた鍋へ入れます、揚つたら醬油または煮汁をかけただけでも頂けます、[illegible]ならば之をおでんの如く煮て頂きますと結構です

番茶のあと

先日朝鮮人の子供が『つゝじの花』を食べるとかきましたところ、BSさん申さるゝお方から、こんな面白いハガキが參りました『朝鮮の子供はイヌホ、ズキといふ植物で七八月頃熟して丁度山葡萄のやうなのを好んでたべます、イヌホ・ズキは毒草として嫌はれるものですが別に中毒しないところを見ますと幼い頃からたべなれて免疫性になつたかも知れません』と

▲爪先ダンスの森木綾子(二六)は夫[illegible](三八)に對し離婚請求の訴訟を提起して居ましたが、こんど新劇團の興行の爲め地方に行かねばならぬところから夫が地方行きをゆるすや否や興行許可の假處分を申請しましたが遂に却下となりました▲靜岡縣の岩谷みどりといふ十六歳の女學生は三つになる女の子が汽車に轢かれむとするところを救けて自分は五ケ所の重傷を負ひました、みどりさんの健氣なのに感ぜぬ者はなかつたと申します

婦人界消息

▲大山かね子孃(京城高女教諭) 約五十日間總督府醫院に入院加療中の所此程全快されましたので二十五日より[illegible]地へ轉地療養に赴かれます

▲村上寛子夫人 來る二十八日午前九時より[illegible]後に於ける觀世會春季大會に出場

▲加藤德子夫人 同上

―△會いろ〳〵▽―

△觀世流大會 二十八日午前九時より[illegible]後にて開催素謠は翁、老松、俊成忠度、三輪、小督、小鍛冶、我、[illegible]、采女、通小町、安宅、橋辨慶、[illegible]あり、仕舞は蟬丸、花筐、東三氏、大江山(佐[illegible])

●困つたトラホーム
▽女教員が療治して ▽やるので減ました

本校兒童のトラホームは以前はなか〳〵患者數が多かつたのですが昨年から熱心に注意した結果今では餘程減少して來ました、何分トラホームは二三箇月間繼續なつゞければ治りませんので一度生徒に患者が出來ると全治するまで洵に困つたものでしたが今ではいつも校醫に診察させて患者には每日女教員が療治してやりますので大變都合よくなりました(南大門小學校長談)

□倫敦より一筆申上げ〳〵
□カーキ色の流行と女子參政權運動□

◇拜啓 久しく御無沙汰いたしました、倫敦の近況[illegible]申し上げます社交のシーズンに這入つた倫敦では昨今新綠の影に流行の粹をきさう婦人方も多く見受ます ◇夏衣裳の色は今年もすべてカーキ色でうつり易い倫敦の流行界に二年越の流行とは少々不思議な感じも御座いますが、これもやはり軍國多事の英國であるからと思ひます ◇併し此のカーキ色の廢りませぬのは一面また經濟にもなりますので此の頃の倫敦婦人のやうにカーキ色軍服式の衣裳をお召しになれば服地も餘り上等がいらず附屬品もまた安くつきます ◇襟に襟、腰、裾、胸などの金目のかゝる飾りつけはずんと軍隊式で簡單になりましたから一著の著物で例年の二三割方も廉くつくのださうです ◇兎角新らしがりは女の常と申しませうか色は同じくカーキ色でも衣裳の趣向は極端になり果てはあられもない御婦人方の軍服そつくりの容をとつた人さへ出來て參りました ◇そこでこの最近のはなしにも夜中異物の軍人と間違へられて大騷動を惹き起したとさへ珍らしからず陸軍省でもとう〳〵堪忍袋の緒を切らして罰金二十圓の灸をすゑたと申します ◇二十圓の罰金はその後社交界で有名な貴婦人方に十五六名も祟りましたので昔しから女嫌ひのキッチナーさんは今でも婦人方からうらまれて居ます ◇また昨晩トラフアルガルスクエヤーでは女子參政權の演說で一しきり大騷動をいたしました、さよなら(英國にて白百合より)

商況

東京株式特電
二十四日前場寄付

日本郵船	―
京城電氣	―
東洋拓殖	―
同新株	―
日本米酒	―
東株第一	―
東株第二	―

債券現物特電
二十四日(前日との比較)

東京 東洋拓殖	六六、〇〇
京城 朝鮮銀行	[illegible]
朝鮮瓦斯電氣	一四八、〇〇
南滿洲鐵道	一五〇、〇〇

公債直取引 特電
二十四日(前日との比較)

五分利	九六、七〇
甲號四分	八二、二〇
一回四分	八一、四〇
二回四分	―
甲號五分	九六、〇〇

深川在米特電
二十四日現在

朝鮮米	九〇、六〇
肥後米	六七、七〇
內地米	四九、九四
	二一、五三

東京期米特電

限月	寄付	後場
當限	一四、九〇	―
中限	一五、〇八	―
先限	一四、〇九四	―

大阪期米特電
二十四日前場

	寄付	止め
當限	一四、〇四	―
中限	一四、六〇	―
先限	一五、〇九	―

大阪株式特電
二十四日前場

銘柄	寄付	止め
東洋拓殖	八〇	―
大阪商船	[illegible]	―
阪神電氣	[illegible]	―
宇治川電氣	[illegible]	―
京阪電鐵	[illegible]	―
東京電燈	[illegible]	―
和歌山紡	[illegible]	―
合同紡	[illegible]	―
鐘淵紡	[illegible]	―
日本紡	[illegible]	―
大日本麥酒	[illegible]	―
東京株式	[illegible]	―
大阪株式	[illegible]	―

大阪三品特電
二十四日前場

五月限	一三一、〇〇 一三一、四〇
六月限	[illegible]
七月限	一三〇、五〇 一三三、五〇
八月限	[illegible]
九月限	一三三、八〇 一三四、一〇
十月限	[illegible]

下關期米特電
二十四日前場

寄付	―
高値	―
安値	―
止め	―

朝鮮物産特電

馬山改良玄米	二、[illegible]	―
群山改良玄米	[illegible]	―
木浦改良玄米	[illegible]	―
同特改	[illegible]	―
群山特改	[illegible]	―
同改良玄	[illegible]	―
仁川改良玄	[illegible]	―
南浦改良玄	[illegible]	―
釜山中白	[illegible]	―
釜山中白	[illegible]	―
仁川白上	[illegible]	―
仁川白中	[illegible]	―
仁川白下	[illegible]	―
釜山大豆	[illegible]	―
元山大豆	[illegible]	―
鎮南浦大豆	[illegible]	―
城津大豆	[illegible]	―
長淵大豆	[illegible]	―
仁川小豆	[illegible]	―
宣川大豆	[illegible]	―
平壤大豆	[illegible]	―
群山大豆	[illegible]	―
木浦大豆	[illegible]	―

雜報

●銑鐵類更に昂進
其後依然として船腹不足の爲め輸入捗々しからず殆ど入荷絶無と云ふも過言に非ざる姿なるに一方需要は歐洲戰爭開始以來鐵材類の輸入著しく減退せる結果之が代用として內地製品の需要[illegible]

●模造紙停滯
[illegible]

各二三圓方騰貴
[illegible]

七圓の上伸を示し
[illegible]

●綿布更に下押す 五錢安を齎らす
[illegible]

下押 眼先何錢段
[illegible]

●乾海苔は强保合
其後市況は殆んど變らざれど[illegible]乾燥不良の氣味ある[illegible]保合の狀況也

確實 仁川米豆取引所仲買人 (マ) 磯部[illegible] 迅速 電話一六五〇番 六二三番

●米餅引續漸落
[illegible]

眼先八圓內外の相場を現出すべし
[illegible]

下關相場
▲朝鮮白米は[illegible]▲大豆は依然手堅く[illegible]▲小豆は格別狂はず[illegible]

京城正米
[illegible]

京城雜穀
[illegible]

南大門の廻穀
[illegible]

仁川現物市場
[illegible]

生魚市場
[illegible]

仁川期米
▲二十四日前場 [illegible]
電二節十五錢三節 十八錢と高移り

市場雜聞
▲前場持合ひ [illegible]
▲直惚賣多く硬派の見送り [illegible]
▲市場氣乘らず [illegible]

利 仁川米豆取引所仲買人 仲買店 電話[illegible]

軟派の見送り硬派の買狙ひ
[illegible]

▲月末戰如何
[illegible]

仁川米豆取引所
二十四日の七月限

前場		平均値段	
寄付	十[illegible]	一節	十[illegible]
止め値	十[illegible]	二節	十[illegible]
高値	十[illegible]	三節	十[illegible]
安値	十[illegible]	四節	十[illegible]
出來高	九千[illegible]石	五節	十[illegible]

賣買取組高
五月限 九百石
六月限 四千七百石
七月限 三萬六百石

北濱だより
[illegible]

▲堂島米株
[illegible]

▲日本製糖株
[illegible]

▲展開未だし
[illegible]

仁川獨特の相場を演出
[illegible]

先高理想の制高思惑値頃
[illegible]

取組高は增大し來る
[illegible]

受渡し決定の後に於て何れに變動
[illegible]

正誤 五月二十四日發行京城日報第三千二百二十七號第二面東洋拓殖株式會社決算報告中第六十三行目「當」期繰越金トアルハ「前」期繰越金ノ誤植ニ付訂正ス

演藝案內

櫻井町 大正館 電話八七三
[illegible]

御成町 御成座 電話一二九一
[illegible]

黃金町四丁目 黃金館 電話二六三七
[illegible]

明治町 浪花館 電話二六〇番
[illegible]

本町 壽座 電話五七八
五月二十四日より 新派 夜光の玉 喜劇 忠臣藏六段目 勸平裁判 茶屋場 午後六時開幕

勝 大阪堂島米穀取引所仲買人 致富之實無代進呈 (△) 曾我商店 米 電話長北(二四八二)(二五〇二)二番 振替口座大阪二四一七二番 登錄受信略號オサカソガ 五一番

てんかん 病で時々ヒキツケ種々の手當も効なく困難の方切手三錢送れ永年の病も自宅にて人知れず秘術になおす最良藥をお知らせ致し升 名古屋市中區南小川町 救生館

婦人科 產科 入院分娩應需 京城旭町二丁目 院主 衣笠茂 中央婦人病院 (電話二三四〇番)

三和高麗燒は宮內省御用の光榮に浴したり 香爐、花瓶、香盒、茶器、菓子器其他種々 三和高麗燒 朝鮮特產海老の精 海老の精は風味佳良滋養分豐富にして貯藏久しきに耐へ御土産として絶好の珍品に御座候 三和高麗燒元 海老の精發賣元 朝鮮鎭南浦 富田商會 特約店 京城 龜屋支店 同 大津村商會 仁川 清水屋商店 平壤 龜岡商店 江景 大郁 青木 屋商店

京城南大門外鐵道踏切側 今本醫院 電話二八五二番

營業品目 肥料部 蒸製骨粉、乾血、蹄角粉 是印配合肥料、細工用地骨 細工用蹄角各種膠及膠原料 石鹼部 化粧用石鹼、工業用、家庭用石鹼、浮石鹼、粉末石鹼 牛脂、椰子油、鯨油、其他油脂類、苛性曹達、洗曹達 京城東大門外紅葉町 朝鮮肥料製造所 電話二六三五番 京城岡崎町一四番地 朝日石鹼製造所 電話二五六四番 販賣所電話九七三番 振替口座京城四〇〇番

ベッツサイダー ブドウサイダー キリン印ラムネ 平壤泉町 梶原商會支店 發賣元

三ツ矢の三大特色
一 御料品製造の特別なる恩命を拜受せる事
一 天然炭酸瓦斯純良にして豐富なる天然炭酸瓦斯噴出する事
一 胃腸、糖尿、腎臟、氣管、婦人病に特効ある鑛泉にて壜詰する事
以上の三大特色は他の清涼飲料水にはありません
御大典記念飲料 宮內省御用達 三ツ矢平野水 三ツ矢サイダー コローナ

板硝子直輸入商 釜山本町一丁目 村上商店 電話百十九番 振替京城一四五番 ◎相場表御一報次第贈呈仕候

內科 小兒科 外科 花柳病 診察 自午前八時至午後九時 西小門町營醫院跡(電話一三一五) 高井醫院分院 院長正六位勳四等 高井正直 副院長千葉醫學士 松崎玄治

宮本武藏

第四十八回

桃川如燕口演 浪上義三郎速記

吉岡又三郎兼房は初めて森大内記殿の御前へ出でたが、此處で宮本武藏と立合をする事になつた、偖て天下三名人の一人吉岡兼房齋の傳記に移つて申上げますが、此の兼房の父を吉岡治太夫拳房といつて、天正十年三月武田家が天目山に滅亡をして四百五十人と云ふ者徳川家に仕へた、吉岡治太夫は二君に仕へないと云つて甲州を立退き國々を修業して歩行いたが、同じ土になるなら京都が宜しいといふ所で、京都の今出川といふ所へ町道場を開いて八重垣流劍術指南吉岡治太夫拳房といへる看板を出しました、素より金の有る人であるから道場も立派に拵へた所が、扨お弟子と云ふと一人も就かない、付かないといふ譯は其頃三條の小橋に浦邊藤藏と云ふ人が洛中洛外三百人からの門人を取立て、繁昌して居る、其故に吉岡の弟子になる者がない、「止せば宜いのに吉岡治太夫がいくら立派に道場を出しても浦邊藤藏の道場が盛つて居る間は弟子になりてはない」と其れで吉岡の方は悉く評判が惡うございます、其ゆゑ又助と云ふ下男が「先生貴方は何處かへお引越しなすつたら宜いでせう、何も此の土地ばかり日は照りは致しませぬ、お弟子の付かないのは貴方の評判が大層惡いからです、今日も風呂場で斯う〳〵申して居りました」吉「よし〳〵決して心配するな、陰では將軍のことも惡くいふものだ」一々藤吉を聞いて怒つた日には際限のないものだ、運と云ふ字は運ぶといふ、運は練つて待てと云ふ。私は山師劍術とは異つて眞に師範をする手の中があるから今に己れの運が向いて來る、決して心配するな。五年や八年斯うして居つたとて貴樣に不自由はさせぬ、私も時の來るのを待つて居るのである」と平氣で居ります、扨茲に一人お弟子が出來たといふのは西堀川出水日暮といふ所がある、名が日暮ですから至つて貧民の居るところであります、此處に住んで居る搗米屋清十郎と云ふのが弟子になつた、元劍術の下地あるものですから吉岡の處へ參つたのでありますが、吉岡先生喜こんで教へて見ると中々能く出來る、後にも前にもたつた一人のお弟子でありますから喜こ

何の事であつたが、吉岡先生が他から到來した泡盛を清十郎に馳走して 吉「時に清十郎お前位ゐ出來ると頻りに他流試合がして見たいものであるが、私の許しのない間は他流試合をしてはならぬぞ、未だお前位ゐの手の中では向ふが見ねないから先方の人に怪我をさせたり又はお前が怪我をすることがあるが、出來て來るやうになると、之れは此の位ゐのものだに依つて此位ゐにすれば宜いと云ふことが自然に分るやうになるから怪我もしないやうになる、俗に云ふ能ある鷹は爪を隱す、童子教と云ふ書物に「知るものは云はず言ふものは知らず」と書いてある、口に出して言ふ者に限つて出來るものでない、だからお前も劍術の出來るやうな風をしてはならぬぞ」と誡めました、清十郎は 清「誠に有難い先生の御教訓、決して忘れません」と禮を述べて立歸りましたが、丁度三條小橋の浦邊藤藏の道場前を通り掛つて見ると五六人稽古をして居る 甲「どうだ今彼處へ通り掛つて來たのは搗米屋清十郎であるから、道場へ引張込んで打ん撲つてやらうではないか 乙「其が可からう」と道場内から二人三人バラ〳〵とやつて來た 甲「暫く先生、暫らく先生……清十郎は聞かない振りをして居る 乙「清十郎、搗米屋先生暫らく、搗米屋先生暫らく……」 清「私は清十郎と云ふ者と思つたが、何か御用でございますか 二人「我々は浦邊藤藏の門人であるが、一本他流試合を願ひたい 清「どう致しまして左樣な事は私し一向存じません、どうか御免を蒙りたい」と云ふのを無理に道場内へ引入れました

肌に輕く着心地よき夏物の めいせん おちあや 京城本町二 電話八九〇番

(入院隨時) 上野 内科外科 花柳病醫院 南米倉町朝市場通仁濟病院跡 電話二九三四番

入院隨意(診療夜九時迄) 泌尿器病 腎臟病 膀胱病 淋病 梅毒 疳瘡 皮膚病 專門 永樂町二丁目 金光教會隣り 安部醫院 電話四一九番

五月廿六日九星
舊四月廿五日癸壬
木命九紫南破佛滅

[illegible]

御婦人の病の中一番恐ろしき 帶下(子宮内膜炎)の療法

▼帶下とは何な病か 一口に子宮病と申しましても、子宮内膜炎、子宮外膜炎、子宮實質炎等種々ありますが、外膜炎と實質炎とは極く稀で内膜炎が一番多く、子宮病といへば十人が十人迄此の病であると申しても差支ない位です、元來婦人の子宮の内面は粘膜で掩はれて居てこれを内膜、外面を掩ふて居る皮膜を外膜、其の間に包まれて居る肉質を子宮實質といひ、右の内膜の病氣が子宮内膜炎で、帶下とは即ち此の内膜炎を申すのでムいます。

▼帶下の原因及豫防 扨然らば子宮内膜炎即ち帶下は何から起るかといふに、種々ある原因の中最も多いのは男子の黴毒を受けた場合、其の他月經時の不養生、即ち月經の手當惡しき爲め、其の前後の感冒、無理な勞働、産後の不注意、手淫及房事過度ゆゑ、平素之れ等の點には充分注意して豫防せねばなりませぬ

▼急性症の一般病候 次に其の病候は、急性症と慢性症とに依りて多少の相違があり、急性症は初め下腹部が痛み又は脹る樣な氣がし續いて惡寒がして熱を發し、内股から腰の邊にかけて引つれる樣な痛みを覺え、頻りに尿意を催し、便通の具合惡くなり、最初稀薄な水樣の物が降りて夫が段々濃厚な白帶となり、時には血や膿を混じて來る、そして手當もせずに其の儘棄て置くと、遂には難治の慢性症となつて、非常に困難する樣になります。

▼慢性症と一般病候 慢性症は前述の如く急性症から來ることもあるが、最初別にこれといふ痛みもなく白帶などあつて始まり、月を經るに從つて段々降物が多くなり、月經は頻くそして痛みを覺え、月經時の外に出血を起し、下腹が脹つたり痛んだり、腰は冷える、足はつれる、頭痛や眩暈がする、神經過敏になつて物事に感じ易く、直ぐ怒つたりくよ〳〵物案じしたりし、消化不良を來して食慾減じ爲めに身體衰弱する、そして斯樣な病狀が數年又は十數年の間續くことがある。

▼帶下の自宅治療法 子宮内膜炎は不妊症の原因となるは勿論、尚ほ喇叭管炎及卵巣の病氣を惹起し更に一層進んで生命にも關る事が往々あるから早く治療を施さねばなりませぬ、で其の治療法としては、急性の時、殊に發熱疼痛等のある場合には、粥、牛乳、鷄卵、肉汁等の消化し易い流動食をとり、可成身心を安靜にして、腹部を氷嚢で冷すがよく、又慢性症の時は腹部を温め、矢張り身心を安靜にすることが肝要で、家庭生活を離れて湯治に行くなどは宜しい、そして一方藥として中將湯を服用し、傍ら膣部をよく洗滌し、尚ほ外用として子宮座藥と云ふ藥中將球を夜分寢む時膣内に挿入して置けば奏効一層速かで、難症と云はれた程のものでも大概快癒の幸福を得られます、簡易で、安全で、其の上効目の確實な家庭療法としては、これに越したよい方法はムいません

▼婦人病患者の福音 中將湯は現今一流の專門大醫數十氏から名譽の賞讃を受けた模範的婦人藥で世界到處の藥店にありますが、本舖東京日本橋通四丁目津村順天堂本店及大阪堺筋大寶寺町の津村順天堂支店には、夫々病狀に適した加減藥がありますから容體詳しく申込むが宜く、市内は無料で配達します、尚ほ本舖發行の『婦人衞生手引』は斯道專門の天本醫學士が、月經の手當、婦人諸病の家庭療法、産前産後の心得等を親切平易に述べられたもので該患者は勿論一般の御婦人にせひ共讀むで頂きたい、送料二錢添へ御申込みあれば無代進呈致します。

タングステン 用手廻搗鑛機及大マグネット中根式鑛山機械は始政五週年記念物産共進會に於て賞牌一褒狀三を授與され朝鮮唯一の光榮を得工界に於ける最初の受賞者たる 京城南大門通五 電話一〇四番 中根商會

目ぐすり 岸田 精錡水

藥効確實、診療部開始 需用激增、製藥所新設

胃腸病胃癌の妙藥 村井弦齋先生發見
タコラン湯
◎藥價一週分壹圓 二週分壹圓九拾錢 送料六錢 臺樺廿錢支朝鮮
タコラン散 價 十回分貳拾錢 二十八回分五拾錢 六十回分壹圓 送料貳錢四錢
東京市小石川區下富坂町廿番地 無量壽藥園 電話小石川四二〇〇 振替東京一二三八一番

七日ツケタラ鏡をどら色白くなるゲンソ液
今東京で大評判の白美の元素色黒き顏赤き顏日ヤケおしろいヤケ、アレを防ぎキメをコマカに根本的色白く眞の美人美男子となる 全國の藥店小間物化粧品店に販賣す近所に品切の時は代金丈の郵便切手を送れば送品す 東京和泉橋際ゲンソ液本舖 松本浩吉 小瓶二十錢 徳用四十錢

國産 煙草代用 森永ミルクキャラメル
■懸賞字さがし■
■壹等當選發表■

秋田縣平鹿郡增田町關之口 照井寅之助殿
新潟縣南蒲原郡見附町スヮ町 丸山三代吉殿
岡山縣上道郡宮山村大光院内 吉武悦次殿
栃木縣安蘇郡田沼町大字多田 武藤そめ殿
神奈川縣戶塚町矢部廿一番地 館たみ殿
野州佐野町朝日町森川方 小川金次殿
岐阜縣土岐郡脊木林字町屋 中島嘉平殿
大阪市東區安土町二ノ三 高田武夫殿
滋賀縣東淺井郡虎姬村字三川 林義一殿
大阪府泉南郡佐野町 鏡野ゆき殿
長崎縣北松浦郡相ノ浦本町 豬田恒俊殿
京都市下京區本町通岩本方 葛西清次郎殿
東京市日本橋區田所町澤井方 竹中殿

東京府下南葛飾郡小岩村 新井菊治殿
埼玉縣北埼玉郡豐野村北大桑 坪井武殿
熊本市坪井廣町筑紫萬次方 島田益喜殿
福井縣敦賀町櫻松原德松方 松原懸一殿
埼玉縣北足立郡宮原村天神橋 田熊よし殿
兵庫縣神崎郡瀨加村下牛尾村 椋野道夫殿
東京四谷區麴町三井上方 E S殿
長岡市東千手町 山口一郎殿
長野市西長野四四 原山賴彌殿
東京市芝區白金三光町元一 桂鈴子殿
兵庫縣本逸五丁目臺の古 鎌田百松殿
神戶市兵庫東尻池一三〇 藤崎國助殿

東京小石川指谷町一七吉村方 中山一雄殿
岐阜縣稻葉郡南長森村高田 森菊太郎殿
佐賀市夕日町三七 古賀嘉八殿
京都市上京區御前通長谷川方 さくえ殿
前橋市細澤一四拓植方 白石道太郎殿
福井縣大飯郡高濱町 芝原靜枝殿
山形縣南置賜郡中津川村 鈴木賢殿
東京府南千住町千東公九 廣橋芳郎殿
東京芝白金三光町七一管成方 杉田弘殿
佐賀市中町山中たけ子方 吉廣孝殿
東海道大船驛前富岡商會内 池田三次郎殿
米澤市大町上通 船山德助殿

新潟縣古志郡栃尾町上谷内 渡邊喜作殿
東京本所高府立第三中學校前 兒玉百殿
大阪市東區平野町三丁目 原口政太郎殿
筑前若松市本町 北原賀太郎方 中村忠吉殿
東京芝愛宕下町四の北一濱方 繁雄殿
東京淺草區茅町三山松商店方 凸子助殿
東京府下千駄ヶ谷町三五五 山中てい殿
鹿兒島市東千石町公山下方 池畑藏吉殿
東京府下荏原郡池上村内藤方 鳥海春吉殿
大阪市東區常盤町二の元 隔藤吉殿
鹿兒島市上龍尾町一一四 白石榮藏殿
名古屋市西區傳馬町祖父江方 今井信太郎殿

備中國小田郡今井村園井 平井茄二殿
岡山市油町三中川菓子店 野田幸一殿
東京市日本橋區釘店九 大橋友太郎殿
京都市五條魚市場 野村秀次郎殿
栃木縣足利郡菱村上蓮 村岡保男殿
京都市新門前通大和大路 池田エス子殿
栃木縣安蘇郡田沼町大字小見 鈴木玉吉殿
東京府下谷櫻町上野九 小峰たつ殿
山形市外千歲學校内 舒石殿
東京府下南葛飾郡奥戶村細田 杉浦喜賀殿
山口縣都濃郡福川 內藤史子殿
岐阜縣可兒郡錦津村鉛職 岡崎秀子殿
宮城縣伊具郡耕野村三元 宍戶善右衞門殿
兵庫縣加西郡下里村元內百口 幸田六郎殿

京都市烏丸一條上ル 四代のぶ殿
北海道札幌區北六條西一三 小倉汎子殿
高崎市新田町四〇 小板橋かう殿
福井縣敦賀町結城區 田中健治郎殿
京都市楊梅通油小路西入 堀井松之助殿
岡山縣川上郡吹屋町坂本 山木菊夫殿
宮城縣中新田町 田中奥服店殿
東京府下北豐島郡巢鴨村一 木下ゆり子殿
長崎市西上町八〇 大村才次郎殿
佐賀縣鹿島町納富分四五七 松尾みつ殿
長崎縣南松浦郡魚目村榎津浦 九山殿
福井縣武生町鶴澤區 能米隆殿
鹿兒島縣姶良郡清水村 廣田直殿

大阪市北區本庄中野町四二四一 山田廣雄殿
靜岡縣富士郡鷹岡村厚原 認川しげ殿
千葉縣君津郡松村中里區三四 山口末次殿
東京府下向島寺島村一二八八 奥田政男殿
靜岡縣安倍郡有度村中吉田 井上平吉殿
滋賀縣野州郡祇王村富波 森季治殿
東京市小石川區關口水道町吉田方 齋藤長利殿
岐阜縣武儀郡上嵩生村 加藤清一殿
和歌山縣那賀郡粉河町 橋安一殿
大阪市安土町四大市方 金波殿
東京府下代々木田谷一四一 伊藤武殿

兵庫縣有馬郡藍村大川瀨村中村千代子殿
山形縣飽海郡松嶺町南町二一 木須誠一殿
東京日本橋安針町三個長店 東城茶目坊殿
岡山縣上道郡浮田村沼 岡本勘太郎殿
東京市京橋區傳馬町三の一 佐藤壽美殿
長崎縣西彼杵郡崎戶村山本方 吉田治佐太郎殿
長崎縣西彼杵郡樺島村新町 中村音治殿
下關市竹崎町關西小學校内 中野乘次郎殿
福井縣遠敷郡遠敷村遠敷 松岡卯三郎殿
信州諏訪郡湖村 味澤清七殿
大阪市南區谷町六井上商會 井上信三殿
信州丸子七丁目小間物店 齋藤さみ殿
茨城縣下館町 岩淵ます殿

懸賞字さがしは日頃森永に御ひいきを下さる御方に感謝して森のおなぐさみに過ぎぬのでありましたが北海道より九州の津々浦々は申すに及ばず朝鮮滿洲や新領土南洋方面からも續々御回答をいたゞきまして百萬枚の御葉書は積んで山の如く森永は實に皆樣の御ひいきによりて懸賞界に名譽の新レコードを作りました
抽籤は御約束の如く本月十日諸新聞社立會の上新築工場の樓上で最も親切公平にお取扱ひいたしました
當選の發表は一等だけにいたしまして二等三等は發表いたしませんから御承知を願ひます
賞品は一等(額面五圓の貯蓄債券を百人へ)二等(漆器菓子器金一圓五十錢を二百人へ)三等(組合せ文房具金五十錢を五百人へ)それ〳〵お送り致して居ります

森永製菓株式會社

第廿 歐洲大戰寫眞畫報
▼精撰せる寫眞多方面の記事相俟て大戰の最近狀況歷々本誌上に展開す
五月十五日發行 增刊に限り 定價金廿八錢 郵税二錢
東京本町 博文館

京城日報

第三版

廿五日朝刊 (夕刊と合せて八頁)

本紙定價 一部金三錢五厘 一ヶ月金五拾錢 郵税一ヶ月金拾五錢 前金に限り 郵税共三ヶ月壹圓九拾錢 六ヶ月三圓七拾錢 ▲郵券代用二割增

廣告料 ▲五號活字一行金七拾錢 ▲特別欄內一行金壹圓貳拾錢 ▲指定所一行金壹圓 ▲三號活字の一行は二號活字增 ▲六號活字の一行は五號活字同樣

發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話 編輯 二四番 營業 一二六番 一六六〇番
振替貯金口座 京城三〇〇番

京城日報 金融政策

今春我帝國政府は、支那滿洲投資[illegible]機關設置の必要を認めて[illegible]二銀行法[illegible]議[illegible]其もて之を經濟調査會の議に附す。[illegible]其[illegible]蓋し飽まで其初志を貫かむことを期する所にあり。吾人は其熱心を稱揚せざるを得ざるなり。

[illegible]政府當局者は、廣く支那滿洲と[illegible]ても、此種金融機關の直接の任務は、蓋し滿洲南部及び蒙古の一部にあるとは、今日の事體を知るもの丶倶に認むる所なり。且其投資の目的とするところは、主として農業及び鑛業たることも言を待たざる所にして、此種の事業は尋常商業銀行が、爲替割引を以て其業を營むもの丶能くする所にあらざるとも、世人の普く知る所にして、我政府當局者の企圖する所のもの丶、一種の特殊銀行なるとも明白疑を容れざる所なり。

初め我政府其法案を貴族院に提出するや、同院各派は敢て其趣旨を非難せざれども、只其の調査研究未だ盡さゞるものありし爲にして、其通過を拒みたり。蓋し同法案が銀行設置法案として、其體裁を具ふると甚だ全たしと雖も、其の能く特殊金融機關たるの任務を盡くし得べきや否やに就て、疑を挾むべき餘地あり。且日支銀行と云ひ、日滿銀行と云ふ。即ち是れ支那の領土內に於いて其事に從ひ、支那の法制の下に其業を營むものたらざる可らずして、第一に支那の官民の之を歡迎するを要し、第二に支那の法令慣習の之を是認するものあるを要す。特に斯る銀行にして、支那の土地又は工業財產を抵當として、資金を貸附くるといふとは、幾多の困難と、幾多の危險とを伴ふや言を俟たざるべし、政府當局者も、亦自ら其缺點疑點あるを覺りたるや論なく、政府經濟調査會に之れを提出するに及ひて、强て成案を固執せずして、其自由なる研究を要求したるは甚だ其體を得たり。

吾人此種金融機關に就て宿論を懷くや久し。他なし空名を避けて實功を收むるを是れなり。我帝國の亞細亞大陸經營は、我朝鮮を以て其基礎と爲す。其基礎定りて其展開初めて許期すべく、[illegible]あり、統一あり、[illegible]に能く其功を成すべきか[illegible]の金融機關拓殖機關を度外[illegible]滿洲蒙古の事功を求むるは[illegible]迹を失ふものと云はざるべか[illegible]境に我日本人の設立せるもの、日支兩國民共同經營に屬するものにして、金融又は投資を目的とするもの、僅指に遑あらず。而して猶ほ且其用に堪へずと爲して、此に新たなる銀行をも設立せむとす。其數は多を加ふると雖も、其の功は成しがたし。徒らに名目を具ふるを力めむよりは、寧ろ其實を收むるの實行的なるに若かず。是等吾人が數此に言及して、當局者及有識者の注意を促がす所以也。

三道隨行記 中島生

九、金泉より大邱

○金鑛視察後、總督は再び尙州邑に到り、郡廳に於て官民に接見し、其々狀況を聽取し訓示を與へたり。

○尙州は金泉驛を距る九里餘、咸昌聞慶地方を經て忠淸北道又は江原道に至る交通の要路に當り、商業上樞要の地なり。郡內の重なる生產物は米、麥、大豆、紬、木棉、麻布、繭、乾柿等にして是等の物產は市場に取引せられて釜山、金泉、大邱、京城方面に搬出せらる。貨物輸送の經路は洛東江を利用して倭館に到る水運と金泉に到る陸路となり。邑內の人口は大正三年の調査によれば、六千百餘人、內朝鮮人五千三百餘、內地人八百餘なり。

○總督は此地にて郡廳並に守備隊、憲兵分隊、地方法院支廳、物產陳列所等を巡視し、附班儒生に懇篤なる訓示を與へたる後、金泉に向ひ出發す。尙州より金泉まで九里强、二等道路よく修理せられて車行快速なり。金泉驛に近づくに從うて山丘に樹木少なく、處によりては全山赭禿樹はおろか草も見る能はず。金泉へは二里に過ぎざるところにて、總督の自動車パンクしたるが直ちに修理して發す。續いて朝鮮ホテルの自動車もパンクしたるが、五分ならずして復習し、幸に豫定の時刻に金泉驛に著するを得たり。

○金泉は郡廳所在地にして、市街は停車場の附近より東南十町なる廿川の左岸に及び、人口六千餘、內地人一千餘、朝鮮人五千餘、此地南に扶桑、西に金山、知禮、居昌を控ね、東開寧、善山、洛東、比安に、北は尙州、咸昌、聞慶地方に達すべき所謂四通八達の要衝に當り、慶尙北道に於ては市場取引の殷盛なること大邱に亞ぐと稱せらる。附近には丘陵起伏するも、耕地多く農產物豐富なり。尙州より醴泉へ自動車の便あり貨物集散地として將來京釜線中重要なる都邑たるべく、前途多望の地と認めらる。

○總督は驛前に地方官民の出迎を受け、午後六時臨時列車にて出發大邱に向ふ。大邱よりは有力者多數金泉まで出で迎へたり。初夏とは云へど此日列車內は眞夏の暑さなり。大邱着は七時。

日本文化の淵源(五)

文學博士 物集高見氏講演要領

昔の僧侶生活

前述の如く僧侶の食事は一日の內に正午に時を定めて一食と云ふ事に成つて居つたから後世僧侶の食を齋と稱したのである弘法大師や傳敎大師なども大體に贅澤の生活を爲て居つた樣に傳へられて居るが矢張り一日一食宛であつた殊に行基菩薩の如きは聖武天皇を輔佐し奉つて政事に參與し畫策する處極めて多かつた行基式挨の內には日本人の一日食量を米三合と定めたり衣服の色制から帽子冠、食事等などに至るまで定めてある

▽此時代の僧侶 には斯樣に傑出した人の多かつたのは僧侶に稱る時に却々難かしい嚴格なる試驗があつて其の試驗の結果始めて度牒を與へられて僧侶に成たので有るから後に成つてから居が無い譯である從つて印度には早くから開けて發達して居つた今の人達は人の肉體を透視し得るエッキス光線やラジウムの發見などを非常に珍らしがつて居るが佛法から云ふと斯んな事は何んでも無い事で釋迦の弟子では無かつたが其の時代の印度の僧で醫師を兼ねて居つた耆婆は其頃既に

▽人の體內を透 かして見る事の能きる木の枝を持つて居つた此の木の枝は或日耆婆が柴を負ふて來る男を見て居ると其の男の臟腑が透いて見ゆるので不思議に思うて段々調べて見ると其の負うて居る柴の內から一本人間の體を透かして見せる枝を發見し印度では其の樹を藥王樹と呼んで居つたが之れはイセッタイと云ふ木であつて樹脂にラジウムが付いたものである耆婆はそれに由つて人體の內部を隈なく見て居る斯んな風に印度の佛書には早くから樣々の事が記されて居る之を讀み習つた僧侶が世道人心に多大の利益を寄與し得た事は自然の道理である故に世人も亦僧侶を見る事

▽猶父母を見る が如くにあつた其頃の僧侶は又品行方正で上下から非常の尊敬を受けた其の結果後に至つて皇族貴人等の子弟で僧に成る者が段々多く成つた之れは一面から見ると佛敎に勢力は加はつた事になるが一面から見ると一種の佛敎頽廢であつた皇族又は貴紳の子弟などから僧侶に成つた者は大切なる難行苦行が缺げて居る食事が一食だけでは濟まされぬと云ふ事になる白河天皇なども剃髮して僧形はして居つても其の行ふ事は俗世間から離れる事が能きなかつた。これから見ると聖武天皇時代の僧侶達は非常に

▽難行苦行を爲 て學修したものである東大寺は聖武天皇の建立せられた寺であるが或時天皇が東大寺の學寮に居る僧侶達が如何なる風に勉學を爲て居るかと思つて窶々に身を窶し參詣の百姓の如く裝ひ東西の學寮を見て廻ると學僧達は傍目も振らず精神修學して居る態度は太く天皇の御感に入つたが其の內に一人の若い僧が如何にも愁ひに沈んで窓の柱に凭掛つて居たので天皇は其の傍へ寄つて御僧は何故に斯く愁に沈み居れるやと尋ねて見ると其の僧の云ふのに實は每日舐りながら勉强して居つた

▽鮭の頭を漸々 舐り減らしてモッ無くなつて終つたからそれで半分泣いて居るのであると答へた天皇は何故鮭の頭が無ければ勉强が出來ぬかと聞くと一日一食で晝夜間斷なく勉强を續けるのには時々鮭の頭を舐つては精力を付けるのであるが數箇月前からモッ頭を一つ舐め盡して愈々明日から舐る頭が無いからそれで愁ひて居るのだと云ふ事が分つたので之れを聞いて聖武天皇は大變御感心遊ばされそれは宜しいそれならば私が越前國に鮭沼の莊を寄進しようとそこで越前の國に鮭沼の莊を置かれて其れを東大寺の學寮に寄進する事に成つたのである

京日詩壇

○夜登北漢山 小永井槐陰

其一

赤城義士名姓傳。聽者扼腕又側耳。今宵正當復仇夕。欲挺壯擧殺心堅。[illegible]下令衆傾耳。皆言乘月冒險峰。[illegible]七百學徒皆躍然。意氣軒昂振衣起。月明星稀風料峭。喇叭聲裏促出發。[illegible]步不覺[illegible]寒。[illegible]雲峰聳天一方。

其二

帽○稜○霜○重○白○草○寒○飛○鴻○無○跡○夜○漫○漫○[illegible]○出○行○過○義○州○路○風○拂○短○裳○笑○語○歡○曲○折○[illegible]○渡○野○水○石○徑○出○[illegible]○移○跡○乘○興○勇○往、不聞、程、奇勝可探亂山裏、漸入沙器洞、畔、淺、月光素迂照廻谿、箱筵忽破出村、寂、詢映微霧好品題。

其三

崎、嶇、突、兀、千丈斜、步、喘、[illegible]、山、道、[illegible]前、路、石、[illegible]、[illegible]。[illegible]

其四

[illegible]

其五

[illegible]

日報俳壇 雉子郎選

燕

砂風居の奇習擬れて飛ぶ燕 潮外生
燕や食あれば遊ぶ民悲し 同
燕やポストに倚りて書く葉書 沛子
濡れて戻る燕や雨の葬花店 同
燕來て何時癒る母の病かな 句碑守
温室の坑禁く雨の燕かな 橙黄子
道は並木積上げ薪や對ふ燕 和京
燕に午後野風立つ日每哉 山民
子を爭へて啜しき家姉や燕 青眼子
蕓苞に卵分つや飛ぶ燕 韮城
波形のま丶の理屑や濱燕 竹水
燕晴れて町行く袋を耻ぢ心 雉子郎

猫の戀

憑人の眉目險しや猫の戀 韮城
戀猫や已に雨夜のしどま 義朗

雲雀

渡場に犬殘されて鳴く雲雀 求菁
馬皆は荷積を待てる雲雀哉 よしみ
道なけれど皆草山や揚雲雀 雉子郎

子雀

子雀や子供ばかりの村賦役 求菁
子雀や嫁きて歸らぬ姉戀し 韮城

豫約 三十餘年間苦心の二大著書 募集

文學博士 物集高見著 廣文庫 全貳拾册

有らゆる讀書界を慫倒せしむべき曠古の一大著書は、今や多大なる努力を以て、諸君の面前に提供せられたり。抑も學問の要訣たるや、讀書に若くは莫しと雖も、顧みれば載籍數十萬、奈何にして之が取捨選擇を誤らざる可きか、是れ實に世間讀書子の最も痛歎すべき事たらずんばあらず。物集博士夙に此事を慨し、官を棄て職を擲ち、門を閉ぢ客を謝し、拮据三十餘年、總ての精力と總ての財產とを傾倒し盡したるの後、漸くにして之が完成を告げ、之が刊行の機會を得るに至れり。慘憺たる苦心、寔に古今第一人者たるべき也。而して本書の內容に於ては、學者の信憑し得べき和漢書及佛書十餘萬卷中より天文。地理。山川。草木。鳥獸。蟲魚は勿論。神佛。人物。儀式。武技。遊戲。家屋。庭園。器具。調度等に至るまで五萬餘項の事物を採錄したるものなれば、眞に縮縮せる一大圖書館として能く種々の質問に答ふるを得べし。冀くは官衙、公署、學校、圖書館、神社、寺院、新聞社、雜誌社、會社、銀行等に於ても、將又學者、敎育家、宗敎家、藝術家、實業家、操觚者、華族、軍人其他一般の家庭に於ても、本書一部を備へて日夕學問研鑽の伴侶とせられよ。

內容 四六倍判紙質上等印刷鮮明(全部新鑄活字) 紙數約二萬二千頁(各册凡千百頁) 插畫約三千個(各册凡百五十個)
裝幀 背角革、クロース表紙、金字模樣入 天金上製、裝幀堅固
價格 定價……金百五拾圓 豫約價 甲種(一時拂込)……金百圓 乙種(各册拂込)金百貳拾圓 每月金五圓五拾錢宛拂込
送料 各册金五拾五錢
發行 大正五年十月一日より每月一日に一册宛發行し大正七年五月一日に至つて終結す
拂込 豫約價及送料とも京城日報振替口座京城三〇〇番へ拂込まれたし

廣文庫 羣書索引 豫約申込 大正五年六月卅日限り
內容見本 往復葉書にて御申越次第直ちに贈呈

文學博士 物集高見著 羣書索引 全參册

凡そ或事物を研究せむと欲すれば、先づ第一に成るべく多くの材料を蒐集せざる可からず。材料の蒐集にして萬一不足ならむか、考證の薄弱、議論の偏倚、甲を乙となし乙を甲と斷ずるの類、世間往々是れあり。豈に慨歎すべき事ならずや。而も其の材料を包含せる書籍を顧みれば、和書十數萬、之に漢書及び佛書を加ふれば、其の數實に數十萬を以て數ふ。豈に尠少なりとせむや。此の許多なる書籍を擁しながら、其の研究すべき材料を覓むること能はざるは、是れ全く書籍を活用し得べき索引なきが爲めなり。物集博士夙に此の事を憂ひ、廣文庫を著すの旁ら和漢書及び佛書十數萬卷中より五萬餘の事物を抄出し、之を五十音順に排列して、一縉の下に其の欲する所の材料を見出し得べく編纂せり。是れ即ち本書にして、其の價値洵に甚大ならずとせんや。冀くは學問に志ある者、修養を重んずる者、將又趣味に生きむとする者、本書一部を座右に備へられよ。

內容 四六倍判紙質上等印刷鮮明(全部新鑄活字) 紙數約三千六百頁(各册凡千二百頁)
裝幀 背角革、クロース表紙、金字模樣入 天金上製、裝幀堅固
價格 定價……金貳拾五圓 豫約價 甲種(一時拂込)……金貳拾圓 乙種(各册拂込)金貳拾壹圓 [illegible]圓宛三回拂込
送料 各册金五拾五錢
發行 第一册は大正五年十月一日第二册は大正六年一月一日第三册は同年四月一日に發行す
拂込 豫約價及送料とも京城日報振替口座京城三〇〇番へ拂込まれたし

發行所 東京市本郷區駒込林町二百九番地 合資會社 廣文庫刊行會
朝鮮一手販賣 京城太平通一丁目 振替京城三〇〇 合資會社 京城日報社代理部 電話六六〇番

仁川米豆取引所

[illegible] ひたるも三十四錢と高値に突き掛け今一段の[illegible] ▲正米 [illegible] 廿四日の七月限 [illegible] 五月限 九百石 [illegible] 十二圓三十三錢 [illegible]

▲二十四日後場 [illegible]

[illegible] 南部▲低氣壓 [illegible] 七百五十二 [illegible] ▲進行方向 北東▲記事 南西風 强し▲警戒區域 全羅南北道の沿岸

毒瓦斯塹壕を蔽ふ
佛軍陣地奪還―獨軍計畫失敗

巴里來電に據れば昨今ヴェルダンに於て必死的戰鬪繼續され居れり佛軍はフヴオクールを砲撃して成功を收め防舍數個を占領したり戰鬪はモルトンムの西方に於て特に猛烈を極む獨軍が其の前線を擴大せんが爲め屢々試みたる企圖は佛軍の砲火及び機關砲火の爲め撃破されたり斯くて佛軍は引きつゞき襲撃を試み二十日夜失へる陣地の一部を奪還したりミューズ河の東方に於ける獨軍は二十二日佛軍の占領せるホウドロモンのイシヤスに向ひ逆襲を行ひたるも悉く撃退され獨軍は莫大なる損害を被りたりヴオー附近の佛軍は二十三日獨軍の一塹壕を占領したり西シャンペーヌに於る獨軍はスエーンソムピイ地方に向つて有毒瓦斯を發散したるも風向俄かに變じたる爲め毒瓦斯は却つて獨軍の塹壕を蔽ひたり（倫敦電報）

印度の親書檢閲

二十四日朝孟買より門司に歸着せる朝鮮丸船長の談に印度にては最近親書の檢閲を開始せるが這は他國より武器の輸入を防ぐと共に近來日本商品輸入盛んなるにつれ經濟上戰後に於て確固たる地盤を作らんことを恐れ斯くせるものなりと噂され居れりと（門司特電）

經濟調査委員會

經濟調査會にては二十四日午後一時三十分より首相官邸に於て租税部特別委員會を開き菅原、小林、村上、幣原の各特別委員出席去る十三日の租税貿易産業聯合部會に於て調査を附托されたる一、關税政策上將來特に保護を要すべき産業の種類並に之に對する保護の程度及び方法就中鐵、造船材料、機械、曹達工業、米に對し採用すべき方策、關税政策上從來保護を加へたる産業にして將來之を輕減するも差支なしと認むるもの等の諸件を議題として各員意見の交換を行ひ調査研究する所ありたり（東京特電）

四博士陞叙

廿四日左の通り陞叙發表ありたり（東京特電）

京都帝國大學理科大學教授 理學博士 河合十太郎
同 醫科大學教授 醫學博士 鈴木文太郎
同 法科大學教授 法學博士 織田萬
同 同 千賀鶴太郎
陞叙高等官一等（各通）

段芝貴の大穴
奉天省財政破綻

奉天省の歴次借入れし外債にして目下償還期に達せる者約二百萬元ありこれが財本としては略ぼ準備する處ありたるも段前將軍在任中帝政問題の爲めに悉く之れを北京に送附したるのみならず段氏は更に教育費軍需費等にも大穴を明け其奉天逃出の際にも巨額を携帶せしそこにて彼此現在財政の缺款は三百餘萬元に達し當局者は大狼狽の態なるが張將軍は外債は國家信用のかゝる處にて返濟期を誤るを得ざるを以て焦眉救急策として關税の殘額を暫く流用することを政府に請ふ事とし其他に就きては地方公債を募るか或は外債に據るか又外債は其擔保物は如何、償還財源は如何等の問題に就き目下各重要機關を會して密議中なりと（奉天）

京阪たより
大阪にて SN生

……來たす有樣、支那に一大製鐵事業企……足利瑞義、蘭田宗惠師等……迎署にて趣……

▲最近大阪某所への情報によれば上……龍總大日本帝國日本等の四藏元は若……の間に又復波瀾を起すならん……のため紙商間は製紙……至らん

▲大阪輸入新聞は安寧秩序を害する……

滿洲の柞蠶（四）

▲柞蠶の種類● 柞蠶絲に大框絲及び小框絲あり小框絲は柞蠶繭五粒乃至七八粒より成り大框絲は柞蠶繭八九粒乃至十二三粒より成る而して二十粒より成る者を繰絲と云ふ大框絲は普通品質劣等の繭を用ふるを以て其の絲筋太だ粗にして切斷の接續に注意せず故に價格低廉なり通常二百個の繭を以て繰出す處の糸を一箭と爲し其糸量は一兩八分乃至二兩内外にして千個の繭を以て十一二兩の糸を得べし小框糸は品質優良の繭を以て繰り出し絲條細整にして切斷の切續に注意するを以て其價格は大框絲より較高し普通百十個の框を以て一箭の絲を製するを得べし其糸量は九分乃至一兩内外なり要之春繭より製出せし絲は其色淡白にして光澤に富み品質優良なり秋繭より製出せし者は色澤の美は春繭に及ばざるも粗硬強靭にして頗る實用に適す故に市場販賣する處の者は皆秋繭絲なり

▲絲廠● 製絲場を絲廠と稱す安東の絲廠は蓋し芝罘に比すれば猶未だ發達せず蓋し安東は繭輸出を主とし製絲を副とせり又其製絲も僅かに小繭絲に限れり今試みに同地に於ける主要の絲廠を擧ぐれば

絲廠	資本（元）	使用人（人）	繰額一日間（斤）	繰額一年間（斤）	工賃（角）
和盛正	三五,〇〇〇	四〇	二〇	六,〇〇〇	一五
和寶積	二〇,〇〇〇	三〇	六〇	一八,〇〇〇	同
恒昌泰	三〇,〇〇〇	三〇	五〇	一五,〇〇〇	同
泰記	三〇,〇〇〇	三〇	五〇	一五,〇〇〇	同
達記	一五,〇〇〇	三〇	三〇	九,〇〇〇	同
潤生弘	一〇,〇〇〇	三〇	三〇	八,〇〇〇	同
復盛祥	四,〇〇〇	二〇	二〇	五〇〇	同
復裕恒	一〇,〇〇〇	三〇	五〇	一,〇〇〇	同
謙裕恒	一五,〇〇〇	三〇	五〇	三,〇〇〇	同
恒盛永	八,〇〇〇	三〇	三〇	二,〇〇〇	同
計	一三五,〇〇〇	二,四〇	九〇〇	二四,〇〇〇	

安東の絲廠は上記の外小規模の者を合せ其製出する處の小框絲を計算すれば年額四百梱（毎梱所要の繭二十萬箇）にして一年の製絲期間は約六箇月なり

▲收支と相場● 柞蠶絲百斤の製産に對する收支は左の如し

支出

柞蠶繭（二十萬粒）	一六〇兩
製絲費（工賃其他一切）	七〇
計	二百三十兩

收入

作蠶糸	一〇〇斤	二〇〇兩
屑糸	八〇	六〇
蛹	四五〇	三五
計		百六十三兩五

▲用途● 滿洲に於ける柞蠶絲の用途は極めて狹少にして綢紬の材料たるの外は腰帶、脚帶となるに過ぎず綢紬は綢紬練紬の二種に分かる綢紬は其用絲を大豆汁に浸たして製織する者にて乾燥後は頗る品質堅硬となる練紬は面域、豚油の混合液を以て綢紬を練成したる者にて光澤極めて美なりされど外國に於ける柞蠶絲の用途は頗る廣汎にして絨毯、窓掛、テーブル掛、其他各種裝飾、婦人の夏衣、交織物等皆可ならざるはなし

▲包裝● 小框絲は一括したる者を紙にて包み二十括に至り更に油紙に包みて木箱に裝入す其包裝費は毎箱約二元、大框絲は二十五括を白布にて包み其外部を油紙にて包む毎包百斤にして其包裝費一元を要す此等包裝せられたる者の輸出は繭と大同小異にて其最盛期は芝罘方面は結氷前後にあり結氷後は鐵道にて大連に送り更に海外に輸出さる今安東より芝罘に輸出する大小框絲一梱の費用を示せば左の如し（完）

	大框糸	小框糸
汽船賃	二,七〇元	二,七〇元
關税	四,五〇	五,〇〇
出港税	二,五〇	二,五〇
保險料	六〇	八五
包裝費	一,七〇	三,二五
計	一二,二〇	一四,五〇

補助銅貨の供給

朝鮮に於ける補助銅貨の流通は國庫の手を經て市場に出でし額最近の現計三十三萬四千五百圓にして之れを前年に比し一萬餘圓の減少を見居り且つ一般經濟界の發展に伴ひ補助貨の需要大に増進せる爲め商取引上銅貨不足の聲甚だ高きも如何せん日銀代理店鮮銀より銅貨の發送を日本銀行に請求するも鑄造の關係上殆んど送り來らず市場の不便著しかりしが今回造幣局にて新鑄造の銅貨一錢及び五厘の二種六月中に國庫より朝鮮に發送さるゝ由にて之が爲め補助貨不足の聲は大に減ぜらるべし

日滿運輸成績

四月中に於ける朝鮮線由及び發著日滿連絡貨物の輸送成績を見るに東滿側に於ける發著驛は例月の如く哈爾賓一驛のみにして之が數量左の如し

內地發哈爾賓着	四一一噸
哈爾賓發內地著	四五七噸
合計	八六八噸（二〇七）

之を前月に比較する時は總數量に於て二百五十四噸の増加を示せりと雖も前も月に比すれば二百三十五噸を減少せり之れ本月は露國に於ける耶蘇復活祭を含み恰も我が正月に相當するを以て取引は大抵前月の繁忙を承けて小康の状態に在るを常とするが爲めなるべし內地發品種の重なるものは細布百九十八噸、紙六十八噸、莫大小製品六十噸を主とし行李八噸、古新聞、帽子各七噸、西洋手拭、綿糸、藥品各五噸等なり朝鮮發は全部白米にして主として新義州及び鎭南浦積に係るものなるが近來益々其數量を増加し今や輸送全數量の半數以上を占むるに至れり昨年二月初輸送以來平均一箇月約百噸ありし神戸發關貿米は先月に於て僅に二十七噸に減じたるもの本月に入りては更に其輸送なかりしを見れば哈爾賓地方に於ける朝鮮米の勢力範圍愈々擴張せられ其地盤亦強固を加へつゝあるもの、如し

政務總監歸任

山縣元帥病氣の爲め東上中なりし山縣政務總監は遠藤秘書官を從へ途中迄出迎へたる兒玉總務局長、橫井鐵道局長、久芳人事課長、和田參事、時永道事務官、阿部本社長等と共に二十四日午後九時南大門驛著歸任せり驛には朝鮮各貴族、各部長官局課長及び會社重役、民間有志等百數十名出迎へ政務總監には官邸差廻しの馬車にて大和町の官邸に入れり

最近鮮鐵運輸成績

五月中旬に於ける朝鮮鐵道運輸成績左の如し

	本年度	前年對比増
乘車人員	一三三,八六九人	一〇,六二五人
小手荷物斤數	四一九,八四八斤	二六,〇八〇斤
貨物噸數	四三,九六八九噸	六,四七噸
客車收入	一〇九,六三六圓	一六,一六八圓
貨車收入	一二〇,〇九一圓	二五,五六〇圓
總收入	二三九,七二七圓	四一,七二八圓
一日一哩平均	二三圓八二錢	三圓九一錢

露鐵道官憲更任
露國鐵道國際事務局長ピー、チエレシノフ氏逝去したるに付後任として國會議員シー、ザゴルスキー氏就任の旨鐵道局へ通知ありたり

東拓七回移民
東拓第七回移民は募集開始以來會社にて社員及び既住移民を內地に差遣し其の勸誘をなしつゝある爲め各縣よりの問合せ及び申込み極めて多く殊に佐賀及び長野兩縣は目立て増加せりとの事なるが既に申込戸數百戸に達せりと

宮三面灌漑計畫

東洋拓殖會社にて施工の計畫を立てたる全南羅州平野に屬する宮三面二千餘町歩の灌漑施設は計畫既に確立し近く本社直營の下に工事を開始する事となりしに付二十三日關屋土木課長は現場踏査の爲め南下したり

平福伯入京

金剛山探勝の目的を以て來鮮したる東京國民新聞記者平福百穂氏は二十四日午後九時南大門著入京巴城館に投宿せり同氏は四三日滯京の上金剛山に向ふ豫定なりと

青木課長歸任

臺灣觀察を終へ鄕里へ歸省中なりし青木商工課長は二十四日午後九時政務總監の一行と共に歸任せり

平壤の經濟界

岡部鮮銀平壤支店長談

▲平南の商界 平壤を中心とする商界の近狀は夏物の仕入期に際し昨今漸く終らんとしつゝあり大體より過ぎ春季より初夏に至る商況の盛時に比し著しく閑散せるを以て其の價格は餘り好良ならざるが如し更に朝鮮人の購買力を見るも米價不昧にて懷ろ合ひよからず商況の鈍狀なるは止むを得ざる所ならん今後は更に夏枯期に入り一層鎭靜すべし

▲骨粉會社計畫 最近平壤に於て道廳斡旋し民間有力家間に骨粉會社を起さんとの計畫あり之れ年々多量の牛骨を極めて安價に內地に仕向くるを不利とし需要多き骨粉及び細工品等に製造販賣せんとする趣旨に出で唯資金十萬圓其の中四分の一二萬五千圓の拂込みをなし經營せんとする簡單なる事業に多數株主を網めて旨く行くべき乎寧ろ個人經營の優れるを思ふ又採算上有利なれば必らずしも其の人なきに非ざるべし（平壤支局）

京城府民の經濟

■支出に關する調査は一層困難なれど之を市內各階級の代表的家庭に徵するに各家庭共內外交際關係の不同家族生活の情態に於て區別する能はざれども大體に於て收入の多寡に依り支出に消長するは各家庭に共通の事なり、乃ち試みに

■內地人各家庭につき二三の實例を列擧するに某實業家は資金貸其他によりて年收約一萬二千圓あり家族は十三人にして總計八千百三十圓の支出を爲し居れり右の支出を控除する時は三千八百餘圓の餘裕あることゝなり居れり又某官吏の二等一級を受くる高等官にして年收五千八十圓なるが六人の家族を扶養する一箇年の支出は四千七百四十八圓を示し殘額二百數十圓ありと之に年末賞與四百乃至五百圓を假定する時は約六七百圓の貯金を爲し得可し又某會社員にして家族五人を有し年收七百八十圓に對し支出七百八十一圓餘なれども結局一圓餘の不足となり居れども家族の內職收入若干と年末賞與などで之に充つれば左程生計に困難を感ぜざるべし更に下級の某職工に就て見るも年收二百四十圓にして家族二人なれども僅々日給七十錢の職工なれば其妻女の賃仕事によらざれば生計困難なり

■朝鮮人に就て見るに收入の點は殆ど調査の方途なきも某資産家の支出は七千六百七十四圓、剛底にして中流の某家庭に於るものは二千百六十四圓下級者にありては僅かに百五十七圓なるを得るのみなり右は何れも京城商業會議所が各實地について調査したるものにして素より之を以て一般を律し難きも大體に於て相違なかるべし、然れども社會の大部分は下層者にして其大半は鮮人なり此中最下層者の如きは數日間絶食する者も少からず

■要するに戶口の調查と職業の特別物價の情況等よりして內地人一ヶ月一圓鮮人七錢さ各一人の生活程度を見積れば大差なかるべし從つて內地人一年には百三十二圓同鮮人八十四圓となり全市民の支出額は內地人八百三十萬四千六百餘圓鮮人一千四百七十八萬六千百餘圓合計二千三百九萬八百餘圓を數へ然らば內地人は一ヶ年四百十萬七千五百餘圓の收入過剩を見るも鮮人は却て二百九十三萬二千八百餘圓の支出超過となり京城市民一ヶ年の總收支關係は僅かに百十七萬四千七百餘圓の收入過剩にして若し一朝不時の故障あらば收支の均衡を失すべく生活難の聲は內鮮人を通じて同様なれども京城は約五萬の無職業者を有する實況に鑑み中層以下の市民の勤勉は最も必要とす（終り）

南言北語

氣拔けのした愛の樣になりかゝつたヴエルダン戰も實際に於ては却々盛んならしい▲ヴエルダン市中に毎日落下しつゝある獨軍の巨彈は平均二分間に一發の割合だ相な▲今度の戰爭では學者の中にも大分獨逸を痛罵した者も多いが一説家として獨逸人を眞ッ赤に怒らしたのは現代戰爭諷刺諧の泰斗バーカーだらう▲彼は今巴里に來て居るらしいが日夜長く銃を放れぬと云ふ▲其れは獨逸間諜が常に彼れを狙つて居るからだと▲一本の萬年筆を以て斯くも獨人を怒らしたのは凄い▲千萬の文章に勝る譯ではないが獨逸を與ゐる大戰の死者七十萬人の遺族に對し其の扶助は孰んど政府の手では出來ないさうだ▲而らば何うして居るかと云へば皆佛戰爭の時から出來た國民の軍人後援會からやつて居ると云ふ▲之れも世界獨特だ日本にも獨逸に似た後援會があるが頓と振はぬのは心細い▲ホイ朝鮮にも此の間に後援會が出來て居る筈だ▲此奴は命にかけても盛大にさしたいものだ金鮮の諸君奮發せよ▲江東の角技は眞に龍攘虎搏を呈す▲而も東方の旗色頗る惡し此處に盛る者必衰の理あるか▲だから勝て兜の緒を締めよと昔の人が好い事を云つて居るではないか

人事消息

▲吉岡又三郎氏（日本公債會社專務） 二十四日夜入京巴城館へ
▲谷田藤堂主人（東向） 廿四日朝入京巴城館へ
▲北京見學團 二十五日夕退京の豫定
▲渦波德三氏（大倉組重役） 二十四日夜入京天眞樓へ
▲梅村賞氏（三越重役） 同上

朝鮮總督府
一メリケン象皮百四拾貫外拾四點右賣拂スベシ詳細ハ大正五年五月廿五日以後ノ本府官報ヲ見ヨ

不動産競賣期日公告
左記不動産ハ破産者大阪市南區千年町拾四番屋敷金田春吉所有ノ處破産主任官ノ認可ヲ得之ヲ競賣ニ付ス
競賣期日ハ大正五年六月八日午前十時トス
競賣ハ京城地方法院執達吏事務取扱山本太郎ヲシテ同事務所ニ於テ之ヲ取扱ハシム
保證金ハ競賣申出額ノ十分ノ一トス
破産管財人 辰市本丸
金田春吉
京城府元町参丁目武百五拾壹番地上
（一）建設 一木造瓦葺武階建木家造作付壹棟 此坪六拾八坪壹合武勺八才 外武階坪四拾五坪武合壹勺武才 此最低競賣價額金壹千四百五圓也
（二）同所 一木造瓦葺平家建本家造作付壹棟 此坪拾武坪四合四勺 此最低競賣價額金四拾六圓也
京城府元町参丁目武百五拾壹番地上
（三）建設 一木造瓦葺平家建本家造作付壹棟 此坪拾六坪参合七勺五才 此最低競賣價額金壹百武拾圓也
（四）同所 一木造瓦葺平家建本家造作付壹棟 此坪参坪五合 此最低競賣價額金拾四圓也
京城府元町参丁目武百五拾壹番地上
（五）建設 一木造瓦葺平家建本家造作付壹棟 此坪参拾参坪 此最低競賣價額金壹百武拾六圓也
（六）同 一地上建設木造瓦葺平家建本家造作付壹棟 此坪拾壹坪 此最低競賣價額金参拾参圓也
（七）同 一地上建設木造瓦葺平家建本家造作付壹棟 此坪拾参坪五合 此最低競賣價額金参拾参圓也
（八）同 一地上建設木造瓦葺平家建本家造作付壹棟 此坪武拾九坪六合参勺 此最低競賣價額金四百武拾参圓也

岡山縣人 岡崎佑平に告く
國元に急用あり至急歸宅を要す現住所京城南山町二丁目三宅治へ報知せよ

寫眞
寫眞出張撮影
寫眞銅版、亞鉛凸版
最も熟練せる技術を以て最も迅速に而も可成親切を旨とし御需めに可應候
京城日報社 寫眞製版部

スワン萬年ペン
宮內省御用品本品の眞價は既に社會に定評あり種々の名稱を附したる類似品多し本品の軸部には（SWAN）の英字刻印押捺せり
到る所の文具店に目下競爭販賣中買ふ人の爲な特殊寄贈販賣店に御用命を乞ふ目録無代進呈・大阪市・野町二丁目スワン大阪出張所

南滿洲鐵道株式會社
撫順炭
特約販賣所
京城南大門通一丁目（電話九二〇番） 西村商會
元山代理店 元山旭町 小泉商店 電話四五一番
京城南大門通一丁目 三國商會 電話四九〇〇番 振替京城一二〇六 西大門貯炭場 電話一八〇九番
平壤代理店 平壤本町 平松商店 電話一六一番
各代理商店
開城大和町 岡本商店
水原驛前 坂手重三郎 公州旭町 高瀬卯作
同 城內 中島政吉 裡里榮町 土車仁作
平澤驛前 石川耐藏 全州 同商店
鳥致院驛前 朝鮮産業商會 江景中町 林龜助
清州 同商會 鐵原 小宮山八郎
忠州 日榮商會

婦人公論
六月號出來
女の運命
▢天の旅行概略を聞て ▢瞼に翳はれた夜の話 ▢天の掏摸された後 ▢別居だと天に先立たれて ▢愛弟の自殺に遭ひて
若妻（小栗風葉） 情炎（小口長吉） 母から（徳田秋聲） 舞殿（吉井勇） 爪紅（長谷川時雨）
（說）（竹久夢二） （下山京子） （日向きむ子） （岡田八千代） （森律子）
▢大正新女大學……井上博士
▢泥棒の這入る家と注意……警部の談
▢大倉喜七郎氏夫妻……秋風
▢女の肉體美（富士川博士）
▢日本婦人の美德（福本日南）
▢職業調べ……女店員……記者
▢女中の使ひかた……安部磯雄
▢支那婦人の貞操……田村松魚
▢歐洲戰爭に現はれたる偉大なる婦人の力（穗積重遠）
▢西洋の妻と臺所（中根環堂）▢爪を美くする法（マリー・ルイズ）
▢娘を何の爲に女學校に入れるか（宮田校長）
▢支那は今何を騷いでゐるか（吉野博士）
▢カチューシャの話……（島村抱月）
▼定價二十三錢 ▲郵税一錢五厘
東京市本郷區西片町十 中央公論社（振替東京三十四番）

講習科目
小笠原諸禮式速成講習開始
諸禮式。熨斗折方 水引懸方。煎茶手前 各種禮式講話。其他
小笠原流諸禮式、熨斗折方 水引細工、華道生花池坊流 池田柳子
京城旭町一丁目九十四番地
期間來本月廿七日より向ふ一週間（午前九時より午後九時まで）
◎御希望者は美濃紙一帖並に鉛筆ナイフを御持參の事

■クリニング特色は
■一般洋服其の他毛織物の洗濯に其の効最大ならしむる事
■色澤を益々鮮明ならしむる事
■色彩を變ぜざらしむる事
■地質を短縮又は脆弱ならしめざる事
■蒸氣消毒を兼帶せしむる事
■黑色の日燒を完全に染色する事
■其他一般の洋服修理も可致候
時下新綠滴るの候御得意樣各位の御引立を以て日に增し繁榮に趣き候段厚く御禮申述べ候陳者冬洋服御手入れの好時期に相成候に就ては平素多大の好評を博し居り候弊店獨特のクリニング御試めしの爲め多少に不拘御下命の程願上候其他一般の西洋洗濯も迅速叮寧に勉強可仕候
西洋洗濯 クリニング 坂洗濯店
京城南山町三丁目 電話三八七番

▲開城普通學校火災
二十四日午前一時四十五分開城普通……

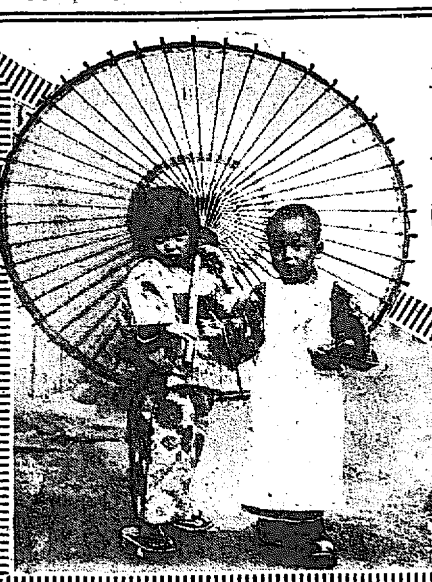
…下緊要なるもの、造船界の現狀より見るも使用鐵材四分の三は外國に仰ぐ英國の輸出禁止に忽ち一大恐慌を…

▲佛教大學 … 立し百萬圓を募集する由前田慧雲、…頭の事なり

大阪期米相場 …

一策として二錢賣を固持せるに反し、賣物を來せし…

▲見分年 各製紙會社は當分の間模造紙の生産を中止し又は休止することゝし但し模造紙の生産力を以て他種の洋紙…右の協定によりて今後會社側の持荷は追々増加し市中在荷は減少するに至り…號をもつて終焉を告げ同社は解散し…害見積價格五百圓人畜等被害なく原因目下取調中なり


五月雨

●生蕃物語

頭目は靈樹の下に立て號令する神人

=不文法による頭目の選擧=
外敵來襲の時には同族一致=
土地調査局調理課長 工藤壯平氏談

頭目に選擧された男は數回辭退した後に私は私の力を以て此の大任を勉め上げる事は到底覺束ないが若し諸君が私を輔翼し指導して下さるならば御推薦の御厚意に從ひますと云ふ樣子の意味を述べて承諾するさうして吉日を選んで新頭目は

□番社中の年長者

及主立つた者に何日に自分の宅で煙草の御馳走を爲るから來て貰ひ度いと案內を爲る其の日に成ると新頭目の家では豫め酒肴を備へ盛なる頭目披露の宴を開く之れから正式に頭目と成つた譯である頭目は前にも述べた通り其蕃社の首長であつて蕃社の安寧秩序は此の頭目に依つて維持せられて居る卽ち他種族に

□他番社に對する外交

より蕃社內の紛擾仲裁、及び裁判を司り、首狩の際に其方策を授ける事及び現今では時々臺灣總督府から出る命令の傳達なども爲て居る且頭目は祭典を司つて居るから一般に蕃社の人々から神聖視される生蕃は日本の太古に似て祭政一致の風がある彼等は其の蕃の集會所の前に榕樹を栽ゑて靈樹として居る此の靈樹の下に立つて號令する頭目を神人の如くに敬畏して居るこの觀念を有するに由つて

□一番の秩序は維持

されて居る今主なる蕃社の頭目選擧の不文法を見るとパイワン族は歷史上名門の家に限られて頭目に選擧せらるゝの特權を有して居る稀には選擧でなく世襲の頭目もある此の蕃社の頭目は五年に一回宛蕃社中の男子一同から租穀を徵收する其他時々獵獲の一部を納入せしめる

□往古の弓弭の貢

と云ふ樣な定めがある此の種族の蕃社には大頭目一人と二三人の小頭目とが居る大頭目は專ら祭祀を司り蕃社の實權を總括して其の餘の事は小頭目に委ねて居るタイヤル族は主として獵獲物の分配の便宜上蕃社を組織して居る關係上專ら武勇腕力優れた者を頭目に戴いて居る

□祭政を宰司する

事は何れの社に行つても異る處はないブヌン族は各蕃社に分れて居るが外敵來襲の際には同族協同一致して此れに當る事に成つて居るから諸蕃社間に國際關係が成立して國際法規慣習が行はれて居る譯であるツオー、アミ、ヤミ等は大小頭目が有つて專ら門閥を重じて名門の內から頭目を出して居る前にも申した通りタイヤルは族長制度であるが

□殊に才能勇力拔群

の者が現出した際には建てゝ頭目にする蕃社もある殊に奇なるはパイワン族の長子世襲頭目であるから從つて女の頭目が少くない生蕃中で最も獰猛なるはタイヤル族であつてブヌン、パイワン、ツオー之れに次ぎサイセツトとヤミ及びアミ族は極めて溫和にして殊にヤミ族（紅頭嶼蕃）は最も溫和にして昔から人の首を取つた事はないさうである（つゞく）

□愛婦總會行啓

愛國婦人會第十五回通常總會は二十四日午前九時三十分日比谷公園に於て擧行さる此の日皇后陛下には豫て仰出されたる如く千種典侍御陪乘午前十時宮城御出門御先著の各宮妃殿下並に委員等の奉迎を受けさせられ濱尾副會長の御先導にて便殿に入御各宮殿下には拜謁仰付けられ次で陛下には濱尾副會長の御先導にて君が代奏樂裡に式場に成らせられ令旨を賜ふ總裁閑院宮妃殿下恭しく御前に進み奉答文を御朗讀あり次で理事有島幸子登場會務報告あり終つて陛下には一旦便殿に入御諸員奉送裡に還啓あらせられたり因に當日の來會者は約二百萬と註せらる（東京特電）

●忠南の篤志家

籾百六石を面に寄附す

忠南唐津郡泛川面倉里豪農俞致興氏は地方有數の資產家として德望厚き人なるが客年同地方凶作の爲め面民中生計困難にして稅金の滯納を爲す者あるを歎き過日面內各里長を招待し說くに納稅の重んずべきを以てし面內總戶數千六十戶に對し一戶當一斗の割合を以て籾百六石を寄附し之を以て各里の基本財產とし各里長に於て之が保管並に利殖の方法を講じ公課納入困難者に對し之を利用せしむることゝせり同郡廳に於ては此の機會を利用し目下納稅組合の組織計畫中なり

●邦人を襲ひし馬賊捕はる

安東縣支那憲兵崔鳳鳴は二十一日午後三時頃後潮溝なる代姓旅店に潛伏中たる馬賊李盛垣を逮捕し警察廳へ引渡したるが取調べの結果犯人は今春鴨綠江上流法莫爾地方に於て伺憀十餘名と折衝通行中なる邦人木林商店清原某を襲ひ洋銀二百餘元を掠奪せしこと判明せり（安東縣）

●上海の火事

棉花一萬五千梱燒失

上海浦東に在るカーロウイツツ商會所有四階建倉庫は廿日燒失棉花一萬五千梱と共に損害高五十萬兩に達す倘大古輪船公司持船キンリン（三千三百九十七噸）は江陰砲臺附近にて火災を起し船內を燒け其際支那人七名溺死す（上海）

●玄界を無錢で渡る

原籍福岡縣嘉穗郡穗波村常次郎三男內野信次郎（一三）と云ふ少年は本月廿日實母の所持金三圓廿七錢を盜み出し諸所を徘徊して殆んど金の全部を消費して僅か殘りの十五六錢を以て門司に出で廿一日夜下關發の連絡船高麗丸が出帆せんとする混雜に乘じて無切符の儘同船に潛り込み廿二日朝同船が釜山棧橋に著きし際も乘客の下船に混れて狐鼠々々と上陸し終日飲まず食はずで其の日を過し再び歸國を思ひ立ち同夜發の高麗丸が今や釜山を發せんとする間際に又もや他の乘客の間に挾まり眞んまと潛り込まんとするを船員の誰何に遇ひ切符の檢査より前夜の無錢乘船の事までも發覺し棧橋前の巡査派出所へ突き出され原籍地の實父に打電し其來釜引取りを待ち居れりと（釜山）

東京大相撲

廿四日午後東京支局特電

▲七日目の勝負

勝 負

外ケ濱 より 黒緘　二十山 すくひ 國見崎
大の里 はたき 男島　大潮 … 神錦
櫻川 つり 谷ケ岩　駒泉 だし 荒玉
琴の浦 ひねり 四海波　千葉嶽 よりきり 稻葉嶽
藤の川 はたき 朝緑　紅葉川 つり 梅川
眞砂石 なげ 龍ケ崎　鶴渡 はたき 玉の川
寒玉子 … 釋迦嶽
大の川 すかし 玉手山
黒瀬川 つり 兩國
源氏山 すかし 大蛇潟
大戸平 よりきり 西の海

△中入後

千年川 ひねり 逆鉾　宮城山 はなし 敷島
岩木山 したて 稻の穗　土州山 … 近江富士
九州山 なげ 鳴門洋
宇都宮 はたき 柏戸
小常陸 よりきり 浦の濱
石山 うつちやり 栃木山
對馬洋 預り 伊勢濱
太刀山 きり 大錦

右の內▼稻葉嶽に千葉嶽は突き合ひ千葉二本差して寄り進み稻の打棄らんとするを外掛けに浴せ倒して千葉の勝▼朝緑に藤の川は左四つ藤の吊るを朝外掛けに殘し其儘凭れ込まんとするを上手投にて藤の勝▼梅川に紅葉川は梅例の通り敵の胸を叩き上げて立ち遮二無二突きかくるを紅葉巧みに捌いて土俵を廻り込むや反對に攻勢を取つて突き立て〳〵遂に突き出して勝▼龍ケ崎に眞砂石は激しく突き合ひ眞砂進んで突き放す▼玉の川に鶴渡は飛び込んで右差しとなるや鶴左手に捲き込み右を當て一氣に押し倒して鶴の勝▼釋迦嶽に寒玉子は寒突き掛けて釋迦の突き返す出鼻をトン〳〵と叩けば釋迦は前にバツタリ落つ

▼大の川に玉手山

は大の例の通りに突きかくるを玉手體を縮めて受けつゝ右を差さんとするを大の拂ひのけるや鳥渡左を覗かせて肩透かしを引けば美事に極まる▼紫雲龍に大鳴門は無雜作に突き出して鳴門の勝

▼兩國に黒瀬川

は好取組み双方の呼吸合はずして立合びに手間取りしが漸く立ち上るや黒の出鼻を兩その右手を引かけんとせるも黒心得て互ひに右上手を差させず左四つに渡りて互ひに右上手を引き兩下手投を打つを黒瀬殘して吊り兩が足癖に防ぐを引外づして遂ひに吊り出して黒の勝は大喝采

▼源氏山大蛇潟

は源氏山素早く二本差となれば大蛇上手を引き右に敵の左手を捲いて上手投げに行くを源殘して下手投げを打返し源の勝は大喝采

▼西の海に大戸平

は大戸飛び込んで左を差し右を當てゝ押し倒す▼近江の寄る一寸左に寄り等に當てゝ押切る

▼宇都宮に柏戸

は宇都右を當てゝ押進み柏の土俵際に殘すを突き放して勝▼九州山に鳴戸

▼小常陸に浦の濱

洋は突き合ひ九左を當てゝ押進めば鳴門その手を取つて廻り込み透かさず懷ろに突いて押進みし時九危かりしが殘して引落し九の勝

▼栃木山に石山

は石鋭く突きかけ右を當てゝ進むを栃殘して廻り込み右四つになるや栃左手に石の腰を捲きそのまゝ強引に打つて石の差手を捲き小手投げを割り出して押進むを打棄つて石の勝

▼對馬洋に伊勢濱

は對馬立ち上がりさま二本差しとなるを伊勢門に挑めて強引に捻るを對馬殘して解つれ今度は伊勢二本門となりて進み下手投を打つを體を預けて浴びせ倒す際同體に流れ物言ひつきて預かり

▼太刀山に大錦

は當日第一の好取組なり仕切直す事數回立ち上がるや太刀の出鼻を錦ハタキしが太刀殘して廻り込むや猛然突きたて錦のタヂログ所を右四つとなるや遮二無二寄切り太刀の勝にて打出したり

▲八日目の取組

琴ケ浦・逆鉾（千葉崎・玉の川）●土州山●宮城山（寒玉子・岩木山）
●柏戸●小常陸（稻の穗・釋迦嶽）（鳴門洋・稻葉嶽）
眞砂石・宇都宮（玉手山・九州山）（大蛇潟・龍ケ崎）
朝潮・大錦（太刀山・栃木山）

▲朝潮出場

朝潮は大錦の休場すべしと號して居りしが果して八日目より出場せり然して大錦との取組は本紙の懸賞角力にして昨夏場所の初顏合せに於いて大錦の勝となり居り朝に取つては當に復讐戰なり

●奇特なる全北の豪農

全北益山郡北一面新里林秉喆氏は祖先傳來の家產を繼承し同地方有數の豪農なるが昨年一月中にも同面內の貧困者に十數石の籾を救恤し本年四月には播種に際し種籾に差支へたる農民に六石餘を無代配布したりと

●梅泉畵伯漫遊 山本梅泉畵伯は釜山福田增兵衞氏亡孫の肖像畵執筆の爲め四五日中出發南下の由なるが旁々大邱、釜山、馬山、光州、木浦、群山等を漫遊すべしと

腕の人

工傳の金工科

‖鍛工部 鑄工部‖

板金細工の工場を出てお隣の鍛工實習所を覗いて見ると此處はまたトッテンカントッテンカンの金槌の響き、よこざの師匠の調子に合せてむかうちの二年生は玉のやうな汗を流して居る、と見れば粉炭をたいた四座の煉瓦造の爐の裡からは眞紅な燒け鐵が取り出されると

それが鐵になる庖丁になる

鍛冶屋さんの卵はトッテンカン〳〵の大元氣、其の他一から十まで總て生徒の眼の觸るゝところ腕の人たる實物教育ならざるは無い、打ち見る處工場內に造られた主たる金具は總て鍬、鉞、ホーなどの農具類であつたが鍬は內地と朝鮮の折中式で唐鍬はまた柄の著け根を螺で締める新案もので、斯くすれば空氣の乾燥する朝鮮でも

大丈夫の拔け落ちる恐がないものはなしであつた

其の他出來上つた品には西洋農具のツーレンホーや日用器具の釘拔、食刀、罐切に至るまで色々な器具が作られてあつた、中にも朝鮮式の鍬になるものが出來て居たがこれは寺內總督の御意見で作りましたとの說明であつた、かく自然木のまゝの柄をつけた一見頗る頑丈なれば一本三四錢で至極經濟向きでもあり且つまた內地

式に丸く削つたものよりは餘程丈夫なものだ相である

次ぎに鑄工部を見に行くと廣き場內の土間の裡には四角に仕切つた土の間に一つ〳〵圓い土穴が作られて傍らにはまた數々の生型、乾型などが並べられてあつた、其處へ一人の實習生が大きな柑堝に眞ツ紅なドロ〳〵の燒け鐵を入れて件の土穴にトロ〳〵と流しこむのも面白く、型は總て生徒の手に作られたものであつた、出口には一の熔鐵爐があつて下からは

送風器による猛烈な熱風が紅く火焰が吹きあぐる迄

紅いドロ〳〵の鐵が出る、鐵は熔鐵爐の裡にコークスと共に投げ込まれまた市中から買ひ集められた鐵屑も混ぜられてあつた、斯くして鑄上げられたる製品には暖爐あり火鉢あり花瓶ありそれが皆工傳獨特の意匠と形態とを有つたものたることも素人の自分によく解つた、就中肉のすきやきに格好な新案燒爐や改良を加へた神仙爐など何れも面白い作方であると思つた（つゞく）

懸賞 讀者文藝募集

‖六月一日から發表‖

暫らく中絶して居りました懸賞讀者文藝は今回復活する事になりました、規定課題は左の通り、六月一日から每日續けてゆく積りですから奮て應募されん事を望みます

▲應募規定 一、用紙は郵便葉書に限り葉書大用紙に各課題を一纏めに認めるも可、但し無記名のものは無效一、紙七匿名は差閊へなきも住所氏名は明記の事、應募宛名は必らず京城日報社讀者文藝係と記されたし

▲賞金 一等一名に對し額面五十錢の京城日報代理部圖書切符を贈る一、選外佳作は發表の日より一週間後一、圖書切符を贈る一、選外佳作を發表し先着者に賞金を送る

▲課題 讀者文藝の課題は左の如し

課題	締切	發表
狂歌『獨逸』	廿九日	一日
都々逸『日傘』	同 三十日	同 二日
川柳『笛』	同 卅一日	同 三日
物は付『涼いものは』	六月 一日	同 四日
一口噺『朝鮮に因むもの』	同 二日	同 五日
謎々『支那の戰亂』	同 三日	同 六日

（へメ追つて出題）

西鮮地方愛讀者諸君

御大典活動寫眞巡寫

南鮮地方を巡回讃寫しました處其後全鮮各地の愛讀者諸君より頻に讃寫の希望が參りますから今回更に西鮮各要地の京城日報、每日申報各支局各販賣所の主催で讃寫する事と致しました其の開催地と日程は左の通りです

地	會場	日程
開城	（開城座）	廿八日午後二時軍人學生 同日午後八時一般公衆 廿九日午後二時 同日午後八時一般公衆
平壤	（歌舞伎座）	卅一日午後二時軍人學生 同日午後八時一般公衆 一日午後二時軍人學生 一日午後八時一般公衆
新義州	（歌舞伎座）	四日午後二時官衙團體 四日午後八時一般公衆 五日午後二時軍人學生 五日午後八時一般公衆
鎭南浦	（花山座）	七日午後二時學生團體 七日午後八時一般公衆 八日午後二時學生團體 八日午後八時一般公衆

入場料 一等四十錢、二等三十錢、三等二十錢

現愛讀者及び新購讀者には非常な特典があります

京日案內

普通（一回前金三十錢 匿名一回每に金五錢增）
番外

▲外勤員募集 年齡廿五歲以上の開家を望む希望者履歷書携帶來談 京城太平通商業銀行朝鮮債券部 497

▼金融▽ ●本町二丁目 オルガン ピアノ バイオリン 立替 ウツボヤ 電二五七 158

●十二連發銃買受たし 御持參の方は 電話二六〇六番 太平通二 太陽ゴ 495

●家屋 煉瓦造二階家一報を乞ふ 商會へ御一報を乞ふ 491

●貸家 數棟低貨にて貸す 京城長谷川町五八番地 ゴルシャルキ

●店員入用 年齡廿歲前後 希望者 京城黃金町四丁目 富田屋 487

●藥養有者 至急入用 大漢門側 京城本町 489

自轉車職工採用 竹木陶器大理石銅真鍮化學應用無 刀彫刻法傳授當局認可 大田（大田座前）石原米藏 455

●貸家 ◎漢陽公園南 三坂通 畑中 483

◎諸病院又は患家の御需めに應ず 官吏向家賃格安 管理者 龍山印刷局の先 京釜看護婦會 旭町一丁目 電話二八六三 171

好職 利益多大美術ゴム事業 男女誰でも出來本業又は副業に適す志望者は來店又は郵券十錢送れ案內書及製品見本急送呈す 京城太平通二 大漢門前 太陽ゴム商會 498

勸業債券高價買入 新六十四回債券共同販賣 致居候 京城太平通二ノ三二六 商業銀行朝鮮債券部 電話二八三 496

●玄米乳 類似の名稱を附し不良品を販賣する者あり 世人を欺く 東京化學研究所指定販賣店 京城龍山 北米倉町 電話 494

●本年金四年迄 恩給 年金 證書 其他日獨役 一時賜金 通帳 抵利 京城永樂町一丁目 即時 御立替 商品陳列館表門前 江州屋 456

讓店 本町拔目の場所 小資商店にして 都合により讓る 有利なる事を保證す（姓名在社） 493

▼讓店 現在確實なる得意多數あり 建に讓る 望の方は相當の價にて（南山新龍山現在の場所 但し將來無二の營業所） 御面談 472

間自働車 京城春川間 乘合 賃金片道四圓 ◎京城發午前八時 ◎春川發午前九時 京城水標橋通り 電話二三八番 支配人 春川自働車商會 松田壽男 50

株 有利にして確實なる ◎公債 現株賣物あり 現物間屋 京城本町三丁目 電話九九三 田中友吉商店 401

鑛山用機械類並採鑛用具 マグネット 新著 京城南大門外 電話二九四〇番 京僧商會 417

姬婦產婦 御預 救急 ▲產安全出來 中込次第入院 規則書送呈 南山町三丁目 電話取次 京城產養院 419

產婆 マッサージ ◎南山町三丁目消防詰所前に轉居 電話一四四〇番 三浦小糸 427

賣地及一時貸地 南大門通漢湖農工銀行隣三十坪餘 京城黃金町二丁目 電話一〇一五番 喜多金光堂 433

皮膚病花柳病 專門 京城永樂町商品陳列館坂の上 須古醫院 電話二二〇二番 196

內科兒科 專門 胃腸 呼吸器病 京城本町二丁目元中島病院跡（入院隨意） 山田醫院 電話二八〇番 107

●はねつぎ（うちみ）等 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道場 150

眼病專門 各眼病 科用遊 眼鏡 京城黃金町 宮川大學堂 振替京城壹貳九 160

漢江遊船案內 龍山電車終點半丁手前 電話四一八番 貸遊船業 共樂社 434

恩給 年金 類立替 京城本町二（京城銀行横小路） 吉田屋 437

美顏術衣裳着髮結 ◎今般開業 御婚禮等の御衣裳着御招きに應ず 當分の内半額 南山町三ノ一三 美容館 474

◎重石水鉛買入 京城瑞麟洞 大菱商行 電話四八六番 108

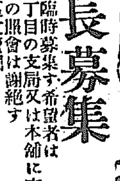
光化門郵便局（橫川端）電話四八六番 恩給年金退隱料 法定利子以內 何分でも特別御便利に 御相談 西村商會 149

京城若草町百六番地 一南大門、櫻井、元町、三公立小學校 附段踊場上ニ小室取設工事 此入札保證金各自見積價格百分ノ

十以上入札參ヘシ

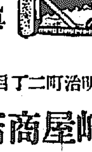
右請負契約ヲ締結スル者ハ京城學校組合ニ於テ … 京城學校組合

外務社員を採用す 中學卒業以上の學歷を有し年齡廿五歲以上の熱誠なる奮闘家を要す 希望者は速かに履歷書を送れ 面談の上採否は追て通知す 京城黃金町二丁目 有隣生命保險株式會社 朝鮮支部



支局 出張所 長募集 補缺の爲め臨時募集す希望者は京城本町四丁目の支局又は本舖に來談あれ 大阪市西區立賣堀 日本一藥館本舖

名譽大賞 受領 ヱスマリ 大阪唐物町四丁目 坂田商店



寫眞機 寫眞材料 京城明治町二丁目 長崎屋商店 電話二二二〇番

千生瓢 (222)

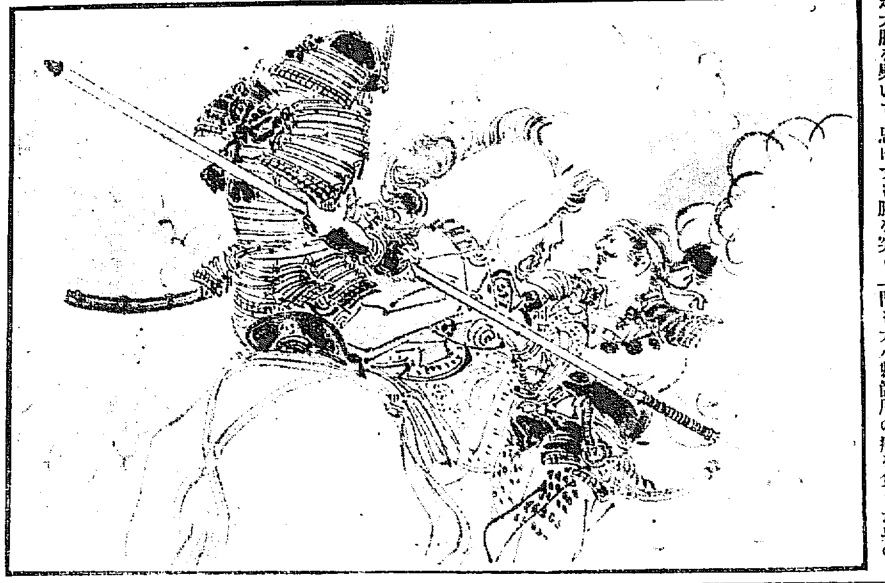
須藤南翠作　筒井年峰畫

長湫（廿三）

茲を先途と防戰に粉骨した黒母衣の勇士が、左右へばつと開くかと見れば、槍を捻つて突つ込んで來た武者があつた。

「推參であらう、小倅め！」

勝入齋は一喝して胡床を立ち起つた。手早く太刀の柄に手をかくる處に、彼の武士飛鳥の如く躍り來つて物をも言はず、突き出す槍先、勝入齋が太股を劈いて、思はずも膝を突く。



今一人の若武者、太刀を翳して飛びかゝり、ねいとばかりに打ち下す。及ともに、勝入齋は無念にも、元を敵に授けたのであつた。

槍をつけた武者は、安藤彦四郎直次であつた。首を打つた若武者は、永井傳八郎直勝であつた。彦四郎直次は傳八郎直勝の首を揚ぐるとゝもに、槍を拔いて血をうち振り、猶も進んで敵に當り、暴れたる猪を家の中に放つが如く、縱横無盡に行動くのであつた。

河合又左衛門尉は、主人勝入齋の戰死を見るや、前の敵をうち棄て、馬を飛ばして紀伊守之助が許に馳せ著けたが、敵の揚げた勝鬨の聲を聞いて、胸を躍らした紀伊守之助は、心ばかりは剛なれども、進退は意に任せず、紀伊守に突き退けられて、馬立て直す間もなく、之助は一鞭して砂を蹴立てゝ驅け出す。

河合又左衛門は井伊が勢を取圍められて、且つ戰ひ、且つ馳する程に、遂に紀伊守を見失ひ、却つて片桐半左衛門の、片息になつて引つ回すに會ひ、再び戰場に驅け戻る程に、逸りに逸つた紀伊守之助、安藤彦四郎直次と槍を合はせて、勢ひ猛く突き合ひたるが、直次が突き上げる槍先に射向の板を突き破られ、餘る穗尖に脇腹を劈かれて、鞍に堪らず落ちる處を、直次無手と組み敷いて、終に首を掻き落した。悲酸極まる最後の狀を、討ち漏らさせた味方の敗兵に聞いたので、互ひに死に後れたる身を口惜みながら、父子もろともに沙場の露と消ねられた上は、若殿の御身愈々心許なしと語り合ひ、無念を忍び、熱涙を呑んで、悄々として引き揚ぐる、勇士が九腸、正に千斷するの懐であつた。

直樣馬を引つ廻して、翻々地に驅け來たる。片桐半左衛門行き合つて途を遮り、

「大殿御遺命おざりまする。瑞龍寺へ御引揚げなさせられい」と、轡を絞つて支へ止めた。

「半左衛門其處退け！家督ならば古新に讓るは。父子一所と誓うての出陣ぢや。止めたとて止まらうか」

紀伊守は槍の柄を揮つて、半左衛門を突き退けた。剛勇無雙の半左衛門も大小數箇所の疵を負うた身の、

果せるかな古新輝政は、遁やく血路を開いて、落ち延びたる折柄、父勝入齋信輝、兄紀伊守之助、ともに壯烈悲慘の戰死を遂げられたと聞き知つて、

「やあ、父君、兄上はや御最期遊した上は、我一人生き殘つて何とせう。父子三人一所に死なうよ」と、涙を揮つて、馬の首を引回さうとした。

此時まで馬の口に付てゐた舍人の與三郎、かくと見て馬の口に取り縋り、強て馬首を引き返し、

「物に狂ひ給ふか。軍は今日が最後ではおざりませぬ。御家は今日を限りではおざりませぬ」と、大聲に呼つて、鞭を揚げて馬をうつ。

「あつぱれの不覺者めが、其處放しをれ」

輝政は大いに怒つて、鐙の端にて其首を砕けよと蹴飛ばした。

蹴られながら此とも快まず、

「やあ、若殿こそ不覺なりやるわ。しツしツ驅けよ、驅けよ」と、與三郎は片手に轡を把り、片手に鞭を揮つて、頻りに打つて驅けさする。

馬は流石に逸物である。鞭は繁く加へられる。鬣を振り蹄を飛ばして疾風の如く驅け出す。輝政は益々怒つて、

「下郎奴、放せ」と鐙を飛ばしてはたと蹴る。

蹴られて淋漓と血は迸しつたが、與三郎は更に轡を放さうともせず、輝政も馳めようともしなかつた。輝政は腹に据ゑかねて、續けさまに蹴る程に、與三郎の首は隙間もなく蹴破られて、皮は裂け、肉は爛れ、鮮血混々と流れ出て、滿身朱に染めたしながら、鞭を揮つて馳せに馳するので、輝政も遂に力及はず、我にもあらず戰場を驅け拔けて、瑞龍寺の本陣へ、空しく引き揚げ來つたのであつた。

この舍人與三郎は、後に伴大膳禁次と稱して、池田が家の老臣に擧げられたが、前額には毛髮を生せず、一眼は潰れ、鼻梁は碎け、滿面破傷の痕を留めて、一見怪異の顔色であつたと傳へられる。是れぞ即ち當年盡忠の瘢痕、是が爲に名流池田の家跡を保つて、備前、因幡の雄藩となり、延いて今日兩侯爵家の繁昌を見るに至つたのである。

入院隨意　胃腸病院　京城南大門通三丁目（西本願寺横入る）　院主 佐々木杏造　電話一六五九番

商況

大阪株式特電

二十四日（二節に於て）

	五月限	六月限	七月限
合同紡績	七〇、六〇		
鐘淵紡績	一七〇、〇〇		
同上新株	一四九、九〇		
東洋精糖	[illegible]		
大阪三品	一〇三、〇〇		

限月		
五月限	一三一、五〇	一三一、六〇
六月限	一三一、五〇	
七月限		一三三、七〇
八月限	[illegible]	
九月限	[illegible]	

下關期米特電

▲廿四日後場（各地當期較ぶ利鞘の目先を要する事に狩合被れたなる）

▲二十四日後場　大阪前正十五圓十六錢後寄未著に付富中川米不申…十二圓二十九錢と同事に寄付たる折柄大阪堂島二十錢と上伸り入電にて買氣動けれたるより忽ち三十銭に乘せ前日の高値三十四錢に顔合せしたるが高値は依然新規

▲山直り手　[illegible]を見しはじめたが存外賣屋勝にて保合狀態となり二錢と押して放合したるが市況は依然割高思ひの賣物多く加之目先利食もあり行支へ模樣を呈したるも底値は強硬であつた　大阪の成行も一時十四州十錢二十五錢忠清道地摺十圓五十錢より六十錢神力十圓九十錢論山…十一圓十錢水原神力十圓九十錢扇殿瓦部十一圓五十錢等にて與田三井天日園田各精米所へ（手一二百叺）

	寄付	引
安値	十二圓二十九錢	
高値	十二圓三十四錢	十二圓三十二錢
終値	十二圓三十九錢	

六月限　四千七百石
七月限　三萬二千四百五十石

再三宮内省御買上の光榮を辱ふせり

東京で一番よく賣れる美人となる

ホーカー液

ホーカー液を朝夕の洗面入浴後に御召し遊ばせば

▣色を白く、キメを細かにし
▣アレを防ぎ、色艶を好くし
▣口ヤケ、白粉ヤケを防ぎ
▣子供衆の皮膚を丈夫にし
▣生來色の白いやうに見え

ます、又

▣白粉下、白粉のトキ水によく
▣男子方の剃刀後に適し
▣香よく香水の代用をする

等全く他に類のない優れた効果をもつて居ます

定價小瓶廿錢、中瓶四十錢、大瓶八十錢　送料内地八錢　朝鮮三十錢
内外到る處の小間物、化粧品店、藥店に販賣す
若品切の節は直接本舗へ御申込被下度、代價は切手代用にて御注文を乞ふ

本舗　東京和泉橋　堀越嘉太郎商店　振替東京二四一一八番

新刊書御案内

書名	著者	定價
採鑛設計	内田三郎	一、七〇
幾何學解義	[illegible]	九〇
最新中等化學通論	[illegible]	一、八〇
肥料製造論	木田芳三郎	一、三〇
吾が農家の經濟	谷本米州	一、二〇
近世支那十講	稻葉君山	一、五〇
英雄史談	上田萬年	一、二〇
哲學汎論	木下四郎一	一、一〇
教育界の表裏	新水梅主人	八五
煬帝艶史	三木愛花	九五
檢訂ロマンス	田口	六五
現代名歌選	稻田東碧	八五
汎獨逸主義	大原甲靖譯	一、〇〇
俳通	小波	一、五〇
人の垢	[illegible]	九五
黑髮集	吉井勇	八〇
地獄の花	永井荷風	七〇
ボティチェリ	木村莊八	一、〇〇
霧の王國へ	別所梅之助	一、〇〇
接吻外八篇	チエーホフ	九五
白露紅露	幸田露伴	五〇
合歡の花	田山花袋	九五
野球年鑑	朝日新聞社	三五

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八六　振替京城二五七三番

滿蒙處分論　定價金一圓　京城日報代理部　振替貯金京城三〇〇

胃病新藥　マーゲン　胃腸治療の新發見　約特店　京城南大門通二　新井藥房

■ボールト專門　■カヌガイ專門
京城府龍山　島田鐵治工場　電話四九番

長壽藥品は「ヨッグルト」
京城若草町　荒井牛乳販賣部　電話二〇一〇番
滋養・健康・持久　荒井の牛乳

漬物味噌問屋　嶋屋本店　京城岡崎町
滿鮮第一

□ジョキニカケテムシタムギ
□ヱイセイジヨウゼヒメシマセ
□電話にて御注文は多少に不拘御届仕候　□ハガキ御注文は切手代御送り申候
滋養　大福麥　御用　石麥
京城南大門外　池田製麥所　電話七二番　振替五四七　九番

營業案内

特許機械製
高等　ほまれ味噌
特約販賣元　京城黄金町　三巴商會　電話三八番
京城南大門外　大三商會　電話二一〇番

生存機能に必要缺くべからざる
滋養補血
フェロール
FERROL
醫家推奬
益々盛なり
美味芳香・病者に最も適當
◎大瓶小瓶の二種あり
●賣捌は各藥店に
御注文は本舗へ
本舗　大阪道修町二丁目　小西久兵衛

農具　蠶具　肥料
…各種…
京城南大門外
株式會社　朝鮮勸農販賣部
電話四〇三番　振替口座三七八番電略(カ)

□農蠶界の盛季來る
營業務擴張
御需用に應す可く候
品質精選・廉價を以て

内科・小兒科
婦人科・花柳病
（入院隨意）
京城櫻井町一丁目（大正館南半丁）
筑紫醫院

醇良清酒　白鶴
仁川本町三丁目
增本酒店
電話一〇九番　振替京城六一九番

日韓書房
新版報告
總督府普通文官試驗問題答解　定價六十錢 送料六錢
總督府編　朝鮮林野分布圖　定價三圓 送料三十錢
遞信局地圖參照　朝鮮里程全圖　定價二圓 送料二十錢
準用條文附加　日本六法全書　定價一圓四十錢 送料十二錢
日置默仙師著　無一物處　定價一圓 送料八錢
京城本町二丁目　電話一五二七・振替口座一二三五番

内科・小兒科
（入院隨意）
京城府龍山元町（憲兵隊側）
幾野醫院
電話二〇四番

京城春川間自働車運轉
京城發午前八時。春川發午前九時
京城南大門通一丁目二十二番地
廣橋京春自働車組
電話三二九番　主務　金正淵

衛生口銹
人に接する時必ず口中せられよ
カオール
特長
▲他人の惡氣を豫防し
▲心身の疲勞を恢復し
▲精神爽快、元氣旺盛
◎ヒスイ色まが玉形　卅五錢
◎小入形　卅八錢　◎袍形廿五錢
◎袋入　五錢　◎箱入　廿錢
十錢　一圓
本舗　東京　安藤井筒堂
代理店　京城　新井藥房

大阪商船仁川出帆

○外航所屬船は、外航路に就ては支那、台灣航路等を除く他は凡て乘客切符發賣仕候

○群山丸	釜山、木浦、群山、鎭南浦、神戸大阪行	五月三十一日	午後九時出帆
×天智丸			
×安東丸		六月 五日	出帆
○須磨丸		五月廿六日	
○信濃川丸	木浦、釜山、城原、郷の浦、長崎行	五月廿九日	後二時出
×信濃川丸		六月十六日	
×鎭南浦丸	鎭南浦、大連行	六月廿九日	後二時出
○信濃丸		六月十一日	
×大連丸	大連直行	六月 十七日	正午出帆
○福州丸		六月 八日	
×潮州丸			
△木浦丸	木浦、釜山、關門、神戸、大阪行	五月 日	後五時出
○安東丸			
×群山丸	群山、釜山、横濱行	六月十三日	後二時出
○潮州丸		五月廿九日	
△福州丸			
×清津丸	清津、浦潮行（元山出帆）	六月 八日	浦潮不寄港
○印	城津、西湖津ニ寄港		
▲須磨丸		五月廿五日	後二時出
▲安平丸	上海、基隆、打狗行（大連出帆）	五月廿六日	
○上海丸			
城津丸		六月 六日	後四時出
湖北丸			

御注意
○朝鮮鐵道及び南滿洲鐵道會社との聯絡切符發賣仕候
○乘船客は本船出帆前一時間前迄に御乘船被下度候
○×印は一等客御斷り△印は船客御斷り

京城切符發賣所　大阪商船會社仁川支店　電話二〇五番
切符發賣所　内國通運會社　電話七〇八番
▲中國四國沿岸各港行船客に對し當分門司迄一割引切符發賣仕候

日本郵船仁川出帆

○大連丸	大連、大沽、牛莊行	六月 四日	正午出帆
相模丸		六月十二日	正午出帆
高砂丸		六月廿四日	正午出帆
三河丸			

仁川海岸町十二番　堀回漕部　電話

朝鮮郵船出帆

本社　電話長一九五二番二三一番
鐵道會社及社外船に接續各地への便あり
京城南大門驛前　京城荷客取次店　松原運送店（電話一七〇番）

○金剛丸		六月 十一日	釜山發
○京畿丸		六月 五日	
○黄海丸		五月廿六日	
○咸鏡丸	門司より釜山各港寄港雄基間航路		
○隱城丸		五月廿三日	元山發
○昌平丸		五月廿二日	
○鏡城丸	元山より各港經由雄基行	五月廿七日	
○忠清丸		五月三十日	元山發
○平壤丸	城津、清津經由浦潮斯徳行	五月廿九日	
○永興丸	北久丸、平甲浦行	毎月廿八回	元山發
○盈徳丸	甘浦、九龍浦、浦項各港寄港鬱陵島行	五月三十日	釜山發
○江陵丸		毎	釜山發
○漢陽丸	長生浦方魚津寄港	日	浦項發
○三浦丸	長承浦、麗水、巨文、島濟州島各港	五月廿九日	釜山發
○海州丸			
○統營丸	各港經由麗水行	毎 日	釜山發
○巨濟丸			
○慶興丸			
○順天丸	各港經由麗水行及麗水より釜山行	三日目毎ニ	木浦發
○慶興丸	各港經由濟州島行	五月廿八日	木浦發
○公州丸	南多島海島嶼	五月廿五日	木浦發
○公州丸	各港經由濟州島行	五月三十日	木浦發
○宗信丸	海州龍塘浦、德洞又は甘部島行	五月廿七日	仁川發
○江原丸	青島、大連、芝罘行	五月廿七日	仁川發
○麗水丸		六月 一日	仁川發
○晉州丸	各港經由木浦行	五月廿六日	
○錦江丸		毎日午前	仁川發
○南陽丸	江華島、椒島、海州行		
○平安丸	往航 大黒山、木浦、門司、若松行	五月廿七日	群山發
	復航 門司、木浦、群山行	六月 一日	若松發

仁川代理店　山下回漕部
元山代理店　田口回漕部
京城取次店　河村運送店

阿波共同汽船仁川出帆

○芝罘、大連行　第三共同丸　五月廿七日入港　五月卅一日出港　日後九時出帆
○朝鮮鐵道主要線にて青島行定期船接續聯絡輸送取扱仕候　大連にては南滿洲鐵道定期船接續聯絡輸送取扱仕候
○城津、清津、浦潮行（元山出帆）第一阪鶴丸　月　日前八時出
○西湖津沿岸各港を經て雄基行　第三共同丸　月　日

仁川代理店　阿波國共同汽船株式會社

汽船釜山出帆廣告

○立神丸	門司、神戸、大阪行	五月廿三日	日後五時出帆
○立神丸	元山、清津、浦鹽行	五月	日後十時出帆
○小倉丸	門司、神戸、大阪行	五月	日後五時出帆
○小倉丸	元山、城津、浦鹽行	五月	日後十時出帆
○第三琴平丸	元山、西湖、新浦、城津、清津行	月	日後六時出帆
○第三琴平丸	門司、宇品、神戸、大阪行	五月	日後六時出帆
○天真丸	佳須奈、嚴原、壹岐、博多行	毎月二日九日十四日廿一日廿六日	午後十時出帆

本船取扱店　大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆

○大正丸	群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行	五月	日後四時出帆
○大有丸		五月廿七日	日後四時出帆
○神代丸		五月	日後四時出帆
○秀吉丸		五月廿五日	日後四時出帆
○君が代丸		五月	日後五時出帆

仁川海岸通一丁目　電話五十九番　高杉回漕部